

事業報告概要書（公表版）		公表様式
1 基本情報		
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要	
防災公園グループ	（指定管理者名）公益財団法人 東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。	
指定期間		
H28.4.1 ～ R8.3.31（10年間）		
2 施設名		
東白鬚公園・木場公園・砧公園・駒沢オリンピック公園・代々木公園・善福寺川緑地・和田堀公園・汐入公園・城北中央公園・光が丘公園・舎人公園・水元公園・篠崎公園・葛西臨海公園・武蔵野中央公園・府中の森公園・武蔵野の森公園・小金井公園・東村山中央公園・東大和南公園・秋留台公園		
3 管理運営の概要		
【管理運営の方向性】 社会情勢やニーズを反映し、公園の管理運営を通して、SDGsの取組など社会的課題解決の一助となるように取り組む。 【防災対応力の強化】 ○東白鬚公園では、墨田区や警察、消防、近隣住民、民間施設等と地域防災訓練や防災フェスタ、防災施設体験会などを開催し、年間の参加者は過去最高の約1,000人となり、公園が核となり、地域防災力向上に努めた。 ○和田堀公園では、令和4年に東京都・杉並区・公園協会間で締結された防災基本協定に基づき、区や地域の関係者との、より発災時の実効性を高める連携を強化することを目的とした大規模防災フェスタを初めて開催した。 ○篠崎公園の地域連携防災訓練では、地域住民自ら率先して災害支援活動ができるよう実践的な訓練内容を実施し、地域一帯で防災スキルアップを実現した。 ○葛西臨海公園では、高潮・津波の際に機能する防潮堤と公園の防災機能について伝えるプログラムを、近隣小学校の授業や船上から公園を見る機会に提供し、災害時の公園特性を伝える取組を実施した。 ○秋留台公園では、避難場所の公園と避難所の体育館・公民館とが連携しての避難誘導訓練を初めて行うことで、発災→避難→生活再建へと続く災害対応の流れを実地で理解する機会を提供した。 【誰もが使いやすい公園づくりを見据えたスポーツ・健康・文化イベント】 ○汐入公園では、東京都障がい者スポーツ協会と連携した健康増進における体験会を初開催した。年齢や力などに左右されず対等に楽しめることを身をもって体験していただき、障がい者スポーツへの理解と普及啓発を図った。 ○東大和南公園では、公園フェスタにプレイキンを取入れ、新スポーツ振興を推進し、公園の付加価値を上げた。 ○代々木公園では、バスケットコートを利用している方々や児童発達支援・放課後デイサービスを運営している団体と協力し、ユニバーサルバスケット大会を開催。障がいのある方も、年齢の違いも、性別も、国籍も問わず楽しんでいただけた。 【多様化するライフスタイルに応える】 ○砧公園では、世田谷美術館や長谷川町子美術館と協力して絵画コンクールを開催し、創造性豊かな作品の数々を展示することで、利用者に公園とアートの融合を楽しんでいただくことができた。 ○舎人公園では、ネモフィア花壇の未利用期間を活用し、斜面地2,039㎡に「ソバ花壇」を整備した。SNSで話題となったほか、舎人ライナーと連携し景品がもらえる企画を実現させ、来園者増に成功し、公園の魅力向上に貢献した。 ○東村山中央公園では、公園が核となりアニメを通じた東村山市、企業・商店街、教育機関との連携を強化し、東村山市が模索していた地域振興と地元への愛着の醸成に初めてつながったことについて、東村山市長より感謝のお言葉を頂戴した。 【環境へ配慮した省エネや生物多様性の取組】 ○府中の森公園では、新設のレイズドベッドにだれでも参加できる花の植付体験を実施し、様々なニーズの利用者に楽しんでいただき公園の利用拡大に寄与した。 【少子高齢化への対応】 ○武蔵野中央公園では、地域の団体やボランティアと連携した紙飛行機等の外遊びイベントを実施し、世代交流の機会を設け、子どもの健全育成に良い機会を提供した。 ○小金井公園では、子どもが主役のイベント「コココの日」を開催。ヒマワリ畑のある広場で大きなシャボン玉遊びを実施したほか、地元の事業者やアーティスト、教育機関や企業CSR等による多彩なプログラムを楽しんでいただいた。		
4 管理状況（維持管理）		
【誰もが使いやすい公園づくりを見据えたスポーツ利用促進に向けた施設の改良】 ○砧公園、善福寺川緑地、東白鬚公園、舎人公園、篠崎公園、東大和南公園の野球場フィールド、和田堀公園の第一競技場フィールド、光が丘公園弓道場施設、陸上競技場フィールド、城北中央公園スポーツ施設更衣室など施設改良を利用者ニーズを勘案し、予防保全的な維持管理に努め、東京2020大会以降のスポーツ利用促進に寄与した。 【ユニバーサルデザインの視点での施設改良】 ○府中の森公園では、子どもや車いす利用者の視線高を確認して、駐車場からインクルーシブ遊具までの導線にキャラクターデザインの案内看板を新設し、利便性を高めた。 ○篠崎公園では、車いす利用者からの要望から東京都と協議のうえ車いすゲートの設置し、利便性を高めた。 ○葛西臨海公園では、駅前からカヌー・スラロームセンターへと続く園路に視覚障がい者誘導施設を設置した。昨年からの計画的な施工により、全526mを完成させ、園内誘導をさらに便利にした。 【デジタルを活用した維持管理】 ○砧公園、駒沢オリンピック公園、善福寺川緑地、和田堀公園、光が丘公園、水元公園、東村山中央公園にて、樹木管理等様々な用途に昨年度までに導入したGISの活用を継続し、将来にわたってデータ管理ができるようにした。 【安全・安心の確保】 ○ベテラン職員の講師による全維持職員を対象とした安全講習会やエリア内共同作業等OJTによる安全作業の指導、定期点検、安全パトロール等の実施等、本社、エリア、現場一体となった対策により、安全・安心を確保した。 ○台風や大雨等気象災害時には、事前に集水桝や側溝等の清掃、危険箇所の点検・補強、積土のう工等を行い出水を防止した。また、雪害対策として、降雪が始まると同時に主要園路や出入口を中心に融雪剤を散布するとともに、天候が回復し次第、主要施設やスポーツ施設の除雪を職員と気象災害時対応業者と連携し、迅速に対応することで、ご利用いただける環境を整えた。 ○セアカゴケグモやハイイロゴケグモ等の危険な特定外来生物の発見を受けて、注意喚起及び発見時の対応の徹底等を実施し、利用者の安全・安心の確保や生息域拡散の防止に努めました。 【パークビューの集中的維持管理】 ○中・長期的視点に立ち、駒沢オリンピック公園の大刈込切戻し作業や善福寺川緑地の桜並木にピックエアレーションによる樹勢回復作業を実施し、将来への景観維持に繋げた。 ○木場公園では、都立公園制度制定150周年記念事業として、公園友の会と一般都民のボランティアによる大花壇への植付を行い、「150th」の花文字を作成した。		

5 利用者アンケート結果					
実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート					
施設名	総合 満足度	植栽 管理	施設の 清潔さ	安全 ・安心	職員の 対応
東白鬚公園	4.7	4.9	4.7	4.8	4.8
木場公園	4.8	4.8	4.2	4.6	4.7
砧公園	4.9	4.9	4.6	4.8	4.8
駒沢オリンピック公園	4.6	4.5	4.0	4.5	4.4
代々木公園	4.7	4.7	4.2	4.5	4.5
善福寺川緑地	4.7	4.7	4.6	4.6	4.7
和田堀公園	4.7	4.7	4.6	4.6	4.7
汐入公園	4.7	4.7	4.6	4.6	4.8
城北中央公園	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8
光が丘公園	4.6	4.5	4.0	4.2	4.2
舎人公園	4.6	4.5	4.3	4.5	4.5
水元公園	4.7	4.6	4.1	4.5	4.6
篠崎公園	4.7	4.5	4.2	4.6	4.8
葛西臨海公園	4.9	5.0	4.8	4.9	5.0
武蔵野中央公園	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7
府中の森公園	4.8	4.8	4.7	4.9	4.8
武蔵野の森公園	4.7	4.6	4.6	4.6	4.7
小金井公園	4.9	4.9	4.7	4.9	4.8
東村山中央公園	4.6	4.7	4.5	4.7	4.6
東大和南公園	4.7	4.7	4.6	4.6	4.7
秋留台公園	4.8	4.7	4.6	4.7	4.8
6 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
東白鬚公園	247,082	墨田区、向島消防署、向島警察署、自衛隊、近隣自治会等との大規模な地域連携防災訓練を全4回開催し、防災拠点として役割を果たした。			
木場公園	1,889,611	地域特徴に合わせたイベントと多様な主体や子育て支援団体等に公園を活動の場として提供することで、地域に貢献した公園運営を推進した。			
砧公園	1,314,891	世田谷区内の関連団体等を一堂に会し、大規模インクルーシブイベントを初開催、利用者や地域の方へのインクルーシブマインドの浸透に大きく貢献した。			
駒沢オリンピック公園	2,441,461	「駒沢ファンタジア」では新規7団体を誘致し、4年ぶりとなるキャンドルアートや近隣大学を誘致したステージなど、公園の魅力向上に貢献した。			
代々木公園	5,943,284	近隣学校等との協働によるバイオネスト作り、帰宅困難者協議会や防災普及啓発での多様な主体との連携を街全体で取組むことで、地域との連携を更に深めた。			
善福寺川緑地	1,574,444	桜並木の樹勢回復させるためにエアレーションを行ったほか、野球場の水はけを改善する補修など、利用者ニーズに応えた管理運営を推進した。			
和田堀公園	1,300,313	コウホネ再生や水生植物の生育環境創出を目指した浅場づくりにより、住宅街の中でも貴重な自然環境の保全に役立っていることを、地域に広く周知した。			
汐入公園	1,654,686	4年ぶり開催された「隅田川花火大会」では地元町会等と強固な連携体制を築き、地域団体との対話を大切に様々なイベントを展開した。			
城北中央公園	1,498,112	町会を招待し調節池工事現場見学会の実施や、特別連絡協議会により地域の声を傾聴し、10町会と連携した防災訓練の開催につなげた。			
光が丘公園	1,723,636	光が丘公園フェスタでは、新たに9団体増やし規模を拡充して開催。目標である「地域交流の拡充による賑わいの創出」を達成した。			
舎人公園	2,374,176	企業等と連携し、電気自動車や外国語対応等、新たな訓練内容を取り入れた防災訓練やイベントを積極的に開催し、地域防災対応力に貢献した。			
水元公園	2,078,233	花菖蒲園のPR手法として都民協働で「花摘み体験」を開催する等、地域との連携力も強め、公園の魅力発信に邁進した。			
篠崎公園	1,232,955	花火大会やイベントでは、江戸川区やボランティア団体等との連携体制を確立し、地域とともに公園運営を展開した。			
葛西臨海公園	3,634,266	地域価値の向上を目指した「ART Marché in KASAI Seaside-Park」を立ち上げ、イベントを開催し、公園の持つ魅力を最大限に活かした事業を展開した。			
武蔵野中央公園	660,985	地域の団体やボランティアと連携したガーデンショーや飛行機イベント等により、世代交流の機会を創出し、子ども達の健全育成に寄与した。			
府中の森公園	848,593	地域と連携した気軽に参加できる遊具体験イベント「にじのかけはしプロジェクト」立ち上げ、インクルーシブな遊具広場の認知度を大幅に高めた。			
武蔵野の森公園	591,043	長年苦情があった自転車危険運転について、車止めや注意看板を新設し、警察や町会と連携したマナーアップキャンペーンを実施し、適正利用に寄与した。			
小金井公園	2,763,710	イベントや都民協働活動で、地域住民や団体が「提供する側」になれるコーディネートを行い、公園利用者・参加者の満足度を高めた。			
東村山中央公園	664,885	公園が核となり自治体・企業・教育機関連携のアニメのシンポジウムと展示会を開催し、地域振興に貢献した。			
東大和南公園	956,817	次期オリンピック競技「ブレイキン」を取り入れた公園フェスタ等を地域連携で実施し、新たな魅力を創出し、地域の活性化につなげた。			
秋留台公園	832,807	自治体や関係団体の連携先を拡充し、避難場所の公園と避難所の施設を繋ぐ実践的な避難誘導訓練を実施して地域の防災力を高めた。			
合計	36,225,990				



東白鬚公園

所在地：墨田区／開園面積：10.31ha

防災活動の拠点や
世代間の交流を育む場として
地域に愛される公園



白鬚東地区の防災拠点としての機能を発揮



訓練参加者数が昨年の3倍、延べ約1,200人に

墨田区、向島消防署、向島警察署、自衛隊、近隣自治会等と大規模な地域連携防災訓練を全4回開催。参加者の高齢化が課題であったため、今年は、近隣中学校や「こども花壇」で連携している保育園等に積極的に声掛けしたことにより**若い親子世代の参加が飛躍的に増加**し、地域防災の担い手確保に尽力。年間を通じて様々な訓練メニューを展開し、**昨年の3倍となる延べ約1,200人が参加**。地域一帯となり、防災対応力向上を図った。



①「防災施設体験会」

②「地域連携防災訓練」



③「防災船輸送訓練」



④初開催!「防災フェア」

「防災遠足」新ルート設定により参加者約2倍へ

今年で7回目となる芝浦工業大学「すみだの'巣'づくりプロジェクト」と地域団体と連携し「まちを知り・防災を知り・自分を知る」をコンセプトに「防災遠足」を実施。公園までの避難ルートを歩き、クイズを交えながら危険箇所や避難行動の確認と、園内では防災施設の組立・運用訓練を実施。避難行動の支援スキル向上の必要性等の新たな課題の発見や防災施設の運用方法への理解が深まり、**繰り返し訓練の重要性を参加者全員で共有**。公園への避難ルートを一つ新設したことにより、要配慮者の対応が多い、児童館や高齢者支援センターからの参加が増加。参加者は**昨年の2倍の130人を超え、地域防災の輪がさらに拡充**。



車いすの方も参加



防災施設使用方法の説明

地域連携防災訓練と相乗効果で「防災フェスタ」参加者が過去最高の1,000人超に

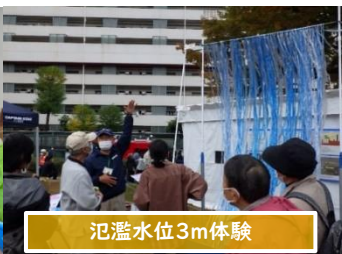
官公署や自治会、専門学校と連携し、「みんなの防災フェスタ」を汐入公園と同時開催。両公園をつなぐ防災施設を巡るスタンプラリーや、車両展示、荒川知水資料館と**初**連携した氾濫動画の上映、氾濫水位体験等を展開。近年気象災害が頻発している影響もあり、特に水害に関するプログラムへの関心度が高いことから、地域ニーズに合わせたプログラムを企画・提案。**地域連携防災訓練を同日開催したことにより相乗効果を発揮し、イベント参加人数は過去最高の1,000人超を記録**。自助・共助の重要性を伝え、防災施設の認知度向上に努めた。



スタンプラリー参加者の列



氾濫動画の上映



氾濫水位3m体験



官公署の車両展示

15 陸の量かさも
作る

A group of children wearing yellow hats are working in a garden. They are surrounded by various plants and flowers. A large orange arrow points towards the children, and the text 'も達の交流の場に' is overlaid on the image.

15 陸の豊かさも
守ろう

・内容）・梅若橋スロープ脇の植栽地剪定刈込 ・公園出入口等の高温水除草 ・車止め視認性向上のため61基に黄色塗装
・点字シート100枚貼替え・インターロッキング不陸補修・点字案内看板1基の板面貼替





木場公園

所在地：江東区／開園面積：23.87ha

新しい公園の魅力発掘！
地域と子どものコミュニティを
みんなで創った木場PARK



大人も子供も楽しい！地域の魅力を活かしたイベントを充実



地域連携イベント「KIBA FESTA 2023」の開催

今年で3回目となる地域連携イベント「KIBA FESTA 2023」を11月に開催。新たな取り組みとしてスタンプラリーはアプリを導入し、広報のためのプレイベントと位置付けて10月から開始したところ、1,114人が参加して802人の方が景品交換をした。**参加団体も10団体から15団体に拡充**して、定番の伝統工芸「一閑張り」体験や郷土料理「深川めし」の紹介のほか、初のイベントとしてキッズマルシェ、端材を使用した木工ワークショップ、親子ヨガ、角乗体験などを行った。昨年度は4日間開催で7,570人の参加であったが、今年度は区報への掲載、大型ポスターの掲示など広報に力を入れたため、**当日朝は小雨交じりの寒い日にもかかわらず、2日間開催で昨年度を上回る9,472人の参加があった（1日平均1.4倍）。**



キッズマルシェ（子どもワークショップ）



保育に特化した企業による親子ヨガ



材木店の端材を使った木工ワークショップ

運動会に向けたスポーツ教室

地域のフィットネスクラブとの**初の連携**として、子どもたちにプロのインストラクターによる「子ども向けのかけっこ教室」と「青空ヨガ教室」を開催。**開催日を運動会直前の9月30日としたところ、145人の親子が参加した。**



走るコツを教わって
運動会で1番だ！

夜の公園も楽しむイベント

多面的活用プロジェクトで設置された園内の店舗と**初めて連携**して「デジタルスタンプラリー＆星空観望会」を実施。**観望会は300人が参加して1時間待ちになるほど好評。**土星の輪や木星の衛星が観察できて楽しんでいただいた。



大型望遠鏡で
はっきり見えた！

公園でアートを楽しもう！

アートセラピストによる屋外でのお絵描きと、パラアートの展示を行った。**お絵描きには520人が参加したほか、地域NPOの協力によるパラアートの展示はミドリアム内で1か月行い、16,503人の方に楽しんでいただいた。**



みんなで大きな絵を描いたよ



関東大震災100年を機に地域の防災意識を向上



期間、規模共に大幅パワーアップした「木場公園防災DAY 2023」の開催

関東大震災100年を機に地域の防災力向上を目的として、8月22日から9月10日までの月曜日を除く**18日間**を「**木場公園防災DAY2023**」と設定して、パネル展示、親子マッサージ教室、ワークショップ、起震車体験など、様々な普及啓発イベントを実施。**延べ8,934人が参加**。

○ 震災当時のパネル展示

初の試みとして、新しく木場に生まれ変わった方々に対して関東大震災当時の様子を記録した公園周辺のパネル31枚を展示。地域の方々の防災意識の向上に寄与した。



世代や国籍を超えて興味深々

○ 紙食器ワークショップ

紙食器づくりのワークショップは親子含めて約240人が参加。保護者にはアルファ米などの防災グッズを、子ども84人には認定証と圧縮タオルのメダルを渡した。



認定証をもらって防災博士

○ 「こどもの防災リスト」の作成

小学生までのお子様がいる方向けに防災準備リストを**新規**作成。裏面には紙食器の作り方を記載してワークショップで活用した。



防災準備リスト
で紙食器作り

子どもにも分かり易い写真付き

パークミーティングにより地域と子どものコミュニティを



「木場こどものにわ」で自然遊びを体験

パークミーティングから発足した「こどものにわ推進委員会」と公園の協働で、子どもたちに自然遊びやどろ遊びができる「木場こどものにわ」を提供。どろ遊びの場のほか、**たねダンゴ作りや花摘みイベント**を行い、**年間で1,931人の方が自然と触れあった**。また、植物の生育状況は、グループに入らなくても閲覧できるチャット式SNSを活用して、推進委員会内の情報を一般に広報した。



花摘みイベントは
127人が参加して大盛況



チャット式SNSで
状況を広く広報

良好な環境を創出する日々の維持管理



美しい草地広場の維持

昨年度は草刈りの苦情があったが、今年度は施工管理と安全管理に注力した結果、**苦情ゼロだけではなく本社にお礼のメールをいただき、来園者から感謝される維持管理に改善ができた**。



本社技術職員による安全講習会

協働による施設維持

塗料メーカー、企業ボランティア、NPO法人と公園が調整を行い61人が参加。ふれあい広場周辺の**ベンチ31基とガーデンフェンス31mの塗装**を行い、**長寿命化に寄与した**。



ベンチの長寿命化にも貢献

施策に沿った景観創出

「東京グリーンビズ」の緑を「増やし・つなぐ」取り組みとして常緑ヤマボウシ16本の植栽を、「まもる」「活かす」取り組みとして水やりイベントを実施した。**植栽位置に創意工夫を凝らし景観創出にも寄与した**。



おおきな〜れ〜





砧公園

所在地：世田谷区／開園面積：39.17ha

すべての**子ども**と
文化を育てる公園



インクルーシブで多様な広場の発信地



スペシャルな一日を過ごそう！

障がいのある人もない人も、ルーツや言語のちがう人、すべてのひとたちを歓迎し、ともに手をたずさえながら楽しめる大規模イベント「**スペシャルデー**」を2日間に渡って**初開催**！延べ2,400人が参加するなど、公園が発信するインクルーシブの考え方、環境を地域に広げていくことに大きく貢献した。また、それぞれのテーマを「遊びの日」、「音楽の日」とし、地域を中心に多くの団体や個人が参加することで「**長期にわたって継続できるような協力体制**」を構築することにも寄与した。



「音楽の日」阿波踊りをみんなで踊る



「遊び日」緑日遊びを体験



インクルーシブな空間を創出し、すべての人が心地よく過ごした



みんなで防災公園を楽しみながら地震の備えを！



「防災フェスタ」で気づきにくい細部を再点検！

過去最多の12団体の参加による「防災フェスタ」を4年ぶりにねむのき広場で開催！これまでも連携の深い公園西側エリアの砧地区に加えて、東側を網羅する用賀地区にもアプローチし新たな参加を実現。公園の周辺全体で発災時に備えるための**地域連携の拡大**につながった。また共催者である世田谷区の協力のもと、親子で参加できるプログラムを多数展開したことで、発災時に実効性があり、協力が期待できる**実年層の掘りおこし**につなげることができた。区や地元の広報の協力により、参加者は昨年実績350人の**6倍**に近い**約2,000人が参加**いただくなど、地域防災の普及啓発に大きく貢献することができた。



トイレ問題や、着替え、プライバシー確保などをテーマにした「ジェンダーレス災害対策クイズ」を実施



「ブルル」木造住宅倒壊模型子どもにも分かりやすく耐震について学ぶ機会を提供



起震車で地震体験



高齢者による消火器体験



スポーツ・文化・芸術のイベントで心身ともに健康に！



アートで表現を楽しむ

世田谷美術館および長谷川町子美術館と協力により、公園をテーマにした7回目となる絵画コンクールを開催。昨年開催時入場者数635人から今年度676人と106%増加となった。多くの来場者から「**創造性豊かな作品の数々に刺激を受けた**」との好意的なご意見を多数いただいた。



出品者の家族も訪れ全作品展示に感謝の言葉をいただいた

音楽で公園を楽しむ



駒澤大学高等学校吹奏楽部総勢50人の生徒による演奏会を開催。800人を超える観客が来園し、「**屋外で聞く吹奏楽はとても素晴らしい**」との声が聞かれた。流行も取り入れた高校生らしいパフォーマンスでいつもとは違う砧公園の魅力をも堪能いただくことができた。

スポーツで健康に！

ファミリーパークの起伏を活かした「クロスカントリーランin砧公園」を開催。世田谷区民ニュースなどの地元媒体への掲出のほか、SNSでの動画配信などで開催情報を積極的に拡散し、昨年の130人からほぼ4倍となる**延べ500人が参加**するなど、砧公園を代表するスポーツイベントとしての認知と満足度の向上に寄与することができた。



WBSC(第1回女子U15 ソフトボールワールドカップ)をバックアップ！



適切な維持管理により快適なプレー環境を創出



A・B面 外野不陸補修



A面 内野不陸補修 (B面は昨年度実施)

初開催となった「第1回WBSC女子U15ソフトボールワールドカップ2023」は10月21日から29日にかけて都内で開催された。世界5大陸から予選を勝ち抜いた国・地域を代表する12チームが参加し、当公園が練習会場として指定された。2022年7月から大会組織委員会や関係部署と打ち合わせを重ねながら、内野の不陸や付帯施設の補修などの準備を進め、**安全かつ快適なプレー環境を整えた**。サービスセンターの全面的な協力により入念な準備が行われ、主催者はもちろん、**都の所管局や実際に練習をした各国のプレーヤーからも多くの感謝の声**が寄せられた。



周辺環境の整備状況



大会関係者との事前打合せ



駒沢オリンピック公園

所在地：世田谷区、目黒区／開園面積：41.35ha

地域や人をつなぐ
すべての中心となる公園へ



地域の方々と一緒に作り上げた駒沢ファンタジア！！！！



地域と連携した駒沢ファンタジアを今年もリアル開催！！！！

新規参加団体7団体を含む16団体が出展し、地域連携を拡大して開催。多くの団体の方々に参加いただき、更なるイベントの充実により、**地域の活性化及び魅力向上につなげる**ことができた。

園内外30か所のポイントを巡る「駒沢ファンタジア アプリdeポイントラリー」もあわせて開催。様々な形で来園者にイベントを楽しんでもらえた。また、広報展開では特設HPの開設に加えて様々な媒体に掲載するとともに、今回初の連携となる東急電鉄の協力により駒沢大学駅内にポスターを掲示。効果的なイベントPRを行うことができ、イベント当日は昨年実績(約3,000人)の2.3倍となる**約6,800人の方が来場**されるなど、大規模占用イベントとは異なる公園の特徴を活かしたイベントとしての賑わいの創出に貢献した。



◆魅力的なプログラムを提供することができ来場者にたいへん好評だった

キャンドルアートが4年ぶりに復活！！！！

駒沢オリンピック公園の誕生日をお祝いするとともに、今年は都立公園が開園して150年を迎える記念の年となることから、その二つのお祝いをイメージしたキャンドルアートをデザイン。**来場者に都立公園開園150周年を広くPRすることができた。**



◆キャンドルアートとライトアップ

光と音楽で多くの方を魅了した

図書館や大学等、新規2団体を誘致してステージプログラムを充実。「キャンドルアート」「花と光のムーブメント」に合わせたナイトコンサートは両事業の相乗効果につながるとともに、**ライトアップやキャンドルの光の演出や音楽により、公園の更なる魅力アップにつなげた。**



◆ナイトコンサート



◆駒澤大学による応援演奏（新規）

SS広場マナーアップの更なる向上 3 すべての人に
安全と安心を

15人の愛好家団体と共同で教室開催

今までの小学生限定だった教室をビギナー教室に変更して幅広い年代が参加できるよう変更。その結果、**更に多くの方々に利用マナーの向上を図ることができた。**また、講師の丁寧な指導により、満足度の高い教室となり参加者に喜ばれた。(参加者数32人、年齢層4歳～46歳)



◆教室を通してマナーの意識向上につながった

新規団体との防災訓練による連携強化 11 災害に備える
まちづくり

新規連携で地域防災ネットワークを網羅

積極的に呼びかけにより、新規3団体との地域連携防災訓練を実施。東側一帯も地域防災ネットワークを網羅し、地域連携および防災力が向上した。「**次年度も定期的に連携した防災訓練を行いたい**」と意欲的な意見を頂けた。(R5年度：訓練回数計4回・参加者数 計328名)



共助には皆様の協力が必要です！

◆新規団体（目黒区危機管理部及び同区町会）との合同訓練

大規模イベント監督指導 8 誰もが
安心して
楽しむ

安全で地域に配慮したイベントの提供

イベント主催者と事前打合せを綿密に行うとともに、開催中の定期的な巡回を実施。苦情やトラブルが発生した際も迅速な連絡と対応から、**安全最優先のイベント運営につなげることができた。**



イベントも安全第一！



◆イベント開催中、職員による巡回を定期的 to 実施

都と連携した緻密で柔軟な対応 3 すべての人に
安全と安心を

大規模な都工事に伴う利用調整

体育館改修工事にともなう中央広場等の利用規制について指定管理者として積極的に関わり、規制がありながらも安全に公園を利用できるようにそれぞれの事案にあった安全対策を積極的に提案。東京都に承諾を得られ、運用が行われるなど、**利用者目線に立った公園管理に貢献した。**



◆工事のためイベントエリア及びジョギングコースを変更

パークビュースポット「大刈込」の魅力向上 15 誰もが
楽しむ
公園

直営力を生かした中長期的な景観の維持

大刈込の景観を維持するため、通常の刈込作業（約5,000㎡）に加え、大きくなりすぎて樹形や景観を乱す一部の低木の樹高を低くする切り戻し作業を共同作業（2日間、53名）で実施。**開園当時からの大刈込の景観をさらに魅力を高められるよう、植栽されている23樹種の内、生育が早く、全体的な景観を乱す株物に対して中長期的視点に立ち、切り戻しやアズマネザサの除去作業を行うことで日照を確保し、将来的な景観維持と良好な開花促進につなげた。**



作業前



作業後



開園当時の写真

◆大刈込の刈込作業に合わせ、切り戻し作業を実施。パークビュースポットの景観が向上した



代々木公園

所在地：渋谷区／開園面積：54.47ha

多彩な活動が交差する
都心のライブラリーパーク

TOKYO PARK
GARDEN AWARD
@ 代々木公園



利用者と共にバスケットコートでの快適な環境を目指す取り組み



バスケットコートへの愛着を持ち、自分たちが利用するコートは自分たちで守る取組みを推進していくため、令和4年度から「PICKUP PLAY GROUND（ゲーム×ゴミ拾い）」「コートリノベーション」の活動を開始。今年度も「PICKUP PLAY GROUND（ゲーム×ゴミ拾い）」の取組みは継続し、次のステップとして利用者と意見交換をおこない、その中で出た要望（掃除用具の設置）を具現化。取組みを知ってもらうプレートを取り付け、利用者の自発的な清掃を促すことを目的に、新たな試みをスタートした。

令和4年度の取組



利用者と公園、協力団体が一緒になって取り組む
「PICKUP PLAY GROUND（ゲーム×ゴミ拾い）」

クラウドファンディングを活用した
「コートリノベーション」



令和5年度の取組



みんなでコートを使うための
ルールでなくモラルを醸成

発展

活動が浸透

多様な連携で実現するサーキュラーパーク



Tokyo park
150 years



地域住民や公園ボランティア、近隣学校との活動を通じ、公園から出たダンボール、剪定枝等の木材を活用した循環型公園への取組。



肥料の生成を促す
バイオネストの設置

ボランティアと学生が協働

公園から出たダンボールを
活用した花壇路づくり



ボランティアと協力してSDGsを推進



近隣学校と連携イベントで来園者に披露

自然の循環をテーマにした土に還るオブジェ製作



新たな価値を生み出す地域コミュニティとの共創

3



4



17



地元サッカーチームとの連携

人工芝に生まれ変わった球技場の更なる利用促進を図るため、渋谷区のSHIBUYA CITY FCと連携した「こどもサッカー教室」や「FOOTBALL JAM」イベントを開催。こどもたちとサッカー選手との交流だけでなく、公園の人工芝でサッカーを存分に楽しんでもらえることができた。



サッカー教室



キックターゲット

自然を活かした情操教育の取組

公園と保育士が協力し行ってきた園児たちの情操教育の一環として花壇管理や腐葉土づくりを更に発展させ、今年度は作業見学やイベント（七夕飾り）の協力など、公園内にある素材を活用した取組を実施。



花壇管理、七夕用の竹切り出し見学の様子



CS（カスタマーサービス）向上への取組

10



ドッグラン登録の効率化

整理券配布や待合席の設置、イラストを用いた手続き案内、Web登録の開始など、手続きの分かりやすさや待ち時間の短縮などサービス向上に寄与。



多い日は約200件の登録、整理券で自分の順番も把握できる

近隣施設へのQRコード案内を開始

外国の方から聞かれることが多い「明治神宮はどこですか？」に対しQRコード案内を開始。巡回中の対応時間も半減、QRコードを読み取るだけなので操作も簡単。



経路案内表示が好評

園内の案内板に英語案内とQRコードを掲示

地域連携を深め更に機能する防災公園へ



街と体制づくり「帰宅困難者対策協議会」

渋谷駅、原宿駅・表参道駅それぞれの帰宅困難者対策協議会への参加を通じ、発災を想定した訓練や避難経路の確認、避難施設への誘導等を行った。



訓練では渋谷駅前のビルに代々木公園のメッセージも表示された



警察と発信「防災×safety action」

地域の安全を守る警察署と避難所指定の公園が、防災等への備えや知識を一緒に発信。同日に開催された「もしもFES渋谷」とも連携し、啓発活動を行った。



普及啓発に対し警察署より代々木公園に感謝状



防災連携団体が大集合「防災ライフ・フェスタ」

展開

渋谷区、消防、警察、自衛隊をはじめ、交通機関、防災関連企業、飲食のケータリングカーなどが集まり、災害時の行動や公園の防災機能を楽しく知ってもらいイベントを開催。



参加者約2,500人 昨対比125%



渋谷区の出展ブースにて防災アプリや避難場所などを紹介

本年度は出展やコンテンツを増やし規模も賑わいもパワーアップ！



善福寺川緑地

所在地：杉並区／開園面積：18.08ha

サクラ並木と心やすらぐ 緑の回廊



公園を取り巻くニーズに配慮した改善

3 すべての人に
利用を促す



15 緑の豊かさを
高める



未来につなぐ、サクラ並木の樹勢回復

善福寺川沿いのサクラは老齢化や踏圧などの影響により樹勢低下しているため、尾崎橋左岸ソメイヨシノ4本に樹勢回復工事を実施。施工にあたり、外部有識者に工法の提案や適切な助言を仰ぐなど、万全の準備を整えた。実施内容は、土壌改良150㎡、エアレーション及び団粒化促進剤灌注150箇所等を行い、中・長期的な視点で、パークビュースポットである善福寺川沿いのサクラ並木の樹勢回復を図り、将来の景観維持につなげた。



樹勢の低下がみられる桜並木



ダガーによる穿孔



団粒化促進剤の灌注

的確な剪定・不溶土を用いた野球場整備により、快適な利用環境に改善！感謝の声多数

野球場（大）周囲のヒマラヤスギが大きく成長し、日陰により、降雨後は利用までに時間がかかっていた。また、近隣からも日照や落葉に対する要望を改善するため、17本の剪定を行った。その結果、日照を十分に確保し、降雨後に使用できるまでの時間を短縮した。近隣住民からも多くの感謝の声をいただいた。



Before



After

野球場（大・小）は利用頻度が高いため、内野に不陸が多い。また、降雨後のぬかるみで利用に支障をきたすこともあったため、内野フィールドの全面補修工事（浸食芝の撤去、客土、攪拌、不陸整正、転圧）を実施。既存の土に不溶土を混ぜる工夫により、**降雨後の利用再開も大・小とも50~70%の時間短縮**につながるなど、施設使用者の利便向上に大きく貢献した。



Before



After



地域連携による防災力の向上



桜の城防災会・杉並区と連携した地域連携防災訓練

地域住民160人が参加し、自宅から公園への避難及び点呼訓練、公園職員による防災公園の役割や防災施設の説明、防災パーゴラ・かまどベンチの組立て及び火起こし訓練、杉並区による起震車での強震度体験等を行った。

参加者から「普段から遊びに来ていた公園の防災施設は知らなかった。」「訓練に参加したことで理解が深まり、災害時の備蓄の必要性も実感した。」との感想をいただくなど、**今後の地域防災の担い手との連携・育成への大きな足掛かりができた。**（6月18日）



成田青少年育成委員会・杉並区・消防署・警察署と連携した地域連携防災訓練

大地震を想定し、自宅から公園へ避難訓練を実施。その後は防災関連施設の紹介や消防署の職員によるAED講習など、防災について学んだ。子どもたちが楽しみながらスタンプラリーで防災施設を学び、保護者は真剣な面持ちで講習を受けていた。かまどベンチや防災パーゴラの存在を知らなかった参加者も多く、組立て方や使用方法を職員が説明した。参加者からは「防災への理解が深まった。」「発災時は手伝います。」と嬉しい声をいただいた。総勢192名の参加者に災害に対する情報や公園の防災について普及啓発を図ることができた。（11月3日）



地域ニーズに応えた多彩なプログラム



親子でキャッチボール

ジャイアンツアカデミーと連携し、元プロ野球選手やコーチが野球教室を開催。野球未経験の幼児に向けてルールを教え、親子でキャッチボールするなど、野球に親しんでいただける普及啓発プログラムを提供。健康増進のための体の動きを学ぶ場を提供できた。

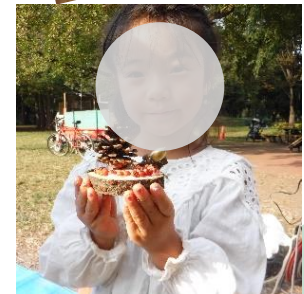


自然とのふれあいイベントで

地域のボランティア団体のFIT杉並会と協力・連携し、ドングリなど園内の秋の実を活用した工作教室を開催。

身近な自然に親しみをもつ機会を提供することで、公園の魅力伝えることができた。多くの参加者から「楽しかった」「来年も参加したい」「散歩で今日使った実を見つけるの楽しみ」など感謝の言葉をいただいた。

（参加50人）

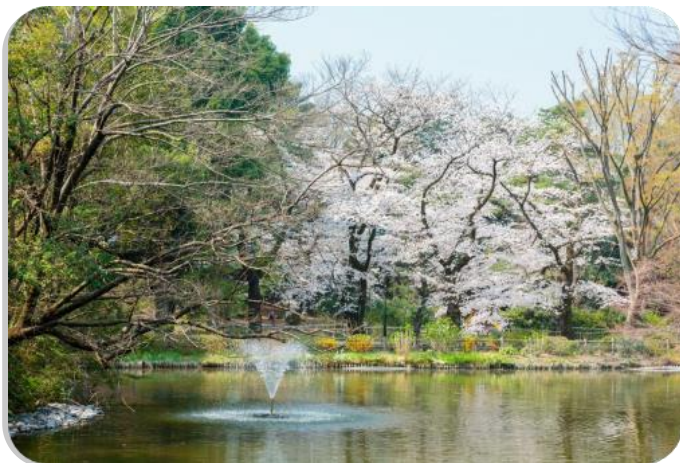




和田堀公園

所在地：杉並区／開園面積：26.05ha

生物多様性の保全と活用 区部の貴重な自然を守る公園



見て・感じて・体験する生物多様性の取組



コウホネ再生を目指した「浅場づくり」

和田堀池のコウホネ再生や水生植物の生育環境の創出を目指し、かつてのコウホネ自生地とその周辺で浅場づくりのための泥上げ作業を参加者と一緒に実施。近隣の私立佼成学園サイエンス部の参加により、生徒が他の参加者を先導し、積極的に泥を運ぶバケツリレーに加わるなど、未来を担う若者の参加により、イベント全体が活気に溢れ、参加した生徒を含めた全ての参加者に一体感と達成感を味わっていただくことができた。また、浅場を作って再生にはずみをつけるという実施意図を明確にしたことで、**希少植物の保全・再生に向けての都民への理解を促し**、今後も都民と協働した事業を継続・拡充していく道筋ができた。



水生生物（在来種）の展示と解説



トロ舟で発芽したコウホネ展示



泥上げ作業とバケツリレー



浅場づくりの泥入れ



集合写真

和田堀池の環境改善への取組

和田堀池とその周辺に暮らす多種多様な動植物の生息・生育環境の保全を目的に、都の「多様な生物が生息する都立公園づくり」事業のモニタリング結果を基に、池内の中島を①薄暗い環境（カタツムリ等）、②明るく開けた環境（野鳥や植物）、③現状維持する環境の3つにゾーニングした。過密した樹木の剪定や枯損木の処理を行い、バードバスを設置。これにより、**単一化していた中島に多様な環境が創出**され、今後、林床植物の変化や鳥類の利用等が期待される。

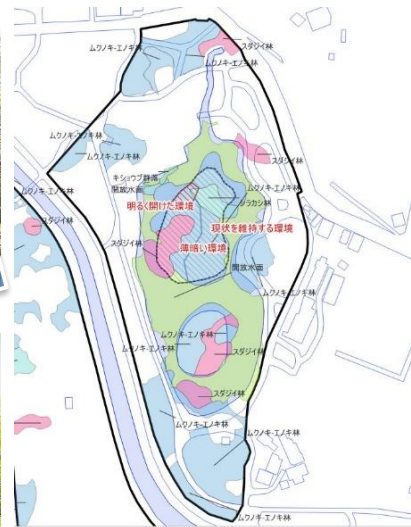
また、秋から春にかけて池の水を抜き、**池の水環境を改善し、埋土種子等の発芽を促す取組**を進め、和田堀池でのコウホネ再生や水生植物の成育に寄与した。



Before



After



和田堀池中の島ゾーニング計画



地域一帯となり防災力の向上



初の公園主催「防災フェスタ」を開催

令和4年に東京都・杉並区・公園協会間で締結された防災基本協定に基づき、区や地域の関係者との連携を強化し、発災時の実効性を高めることを目的とした大規模防災フェスタを**初めて開催**した。区や地元関係者の普及啓発ブースに加え、**今回初めて、公園協会、杉並区の参集者**による応急給水槽立ち上げ訓練や、当該公園の維持管理における**協力造園会社や所轄警察署と連携**を取り、公園内での倒木による負傷者の救出・救助訓練、園路等をふさいだ倒木等の除去する実践的な訓練を行った。来園者や地域住民約1,100人が参加、公園と地域の関係機関、地元事業者との災害時の協力体制に安心感を得ていた。また、「災害時に活躍する車両」の展示などが子育て世代の関心と呼び込み、幅広い年代層に公園の防災力をアピールすることができた。防災訓練や普及啓発を通じて地域住民や防災関連事業者との協力関係を構築し、避難場所や大規模救出救助活動拠点としての公園緑地の重要性を広く周知した。



協会と区の参集者による応急給水槽
立ち上げとパネル展示



倒木等の除去訓練



災害時に活躍する車両展示

ニーズに対する迅速、的確な対応



利用者ニーズを先取り

第一競技場の集中的な補修

令和6年度に第二競技場で都の大規模改修工事が予定されているため、第一競技場の利用者増やニーズ増が推察された。そこで令和5年度は第一競技場フィールド不陸補修や外周部樹木剪定など周辺環境整備を集中的に**先見的な補修を実施し、安全・快適な環境づくりや良好なプレー環境を創出した。**



Before

After



Before

After

都の河川改修工事完了

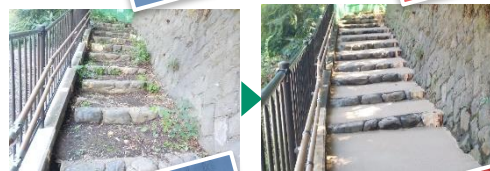
宮下橋周辺再開園へ

都の河川改修工事のために長期工事占用されていた園地が、工事完了に伴い再開園となった。工事期間中の経年劣化により門壁、階段などの施設が老朽化したため、補修を実施。リニューアルした河川遊歩道周辺の**安全確保と美観を向上し、来園者から「歩いていて気持ちが良い。」等の声をいただいた。**



Before

After



Before

After

地元ニーズを取り込んだ剪定

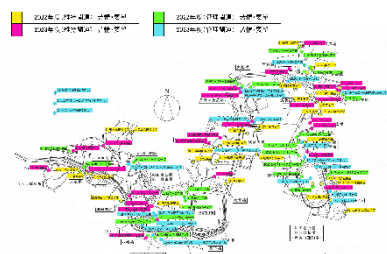
(八幡橋ほか)

河川工事で長期間閉鎖となっていた八幡橋からの景観向上や近隣住宅などのニーズを取り込んだ剪定を実施。迅速、的確な対応に**感謝の声を多数頂いた。**また、利用者の声はQGISを用いて整理し、次年度の**維持管理にフィードバックした。**



Before

After



QGISによる苦情要望位置図



汐入公園

所在地：荒川区／開園面積：12.93ha

花とスポーツで紡ぐ交流
地域の**結び目**となる公園



楽しく学ぶ防災フェスタの開催～体験型プログラムの充実～



南千住警察署、荒川消防署、自衛隊台東出張所、学校法人立志舎と連携し「防災フェスタ」を開催。車両展示（自衛隊救急車、消防ポンプ車、ミニパト）や、お子様用制服の着装体験、ペット防災（緊急時に必要な持ち出し品）展示、プチトリミングなど多彩な防災プログラムを展開。東白鬚公園との2公園防災施設を巡るスタンプラリーが好評を博し約300人が参加。**地域住民を中心に約800人が来場し、地域防災力向上を図った。**



隅田川花火大会対応～緊急時連絡ツールや喫煙所を新設置～



4年ぶりの開催となる花火大会は、過去最高の観覧者が来園することを想定し、韓国の雑踏事故を踏まえた安全対策について事前に実行員会等関係各所との協議を重ね、警備体制を強化。また、「**緊急時案内番号システム**」を公園から提案し、連絡番号を30か所に設置。事件事故発生時は迅速に現場に駆け付けられるよう改善。仮設トイレの増設・洋式化、JTと連携して喫煙所を2か所設けるなど、お客様の利便性向上を図った。公園周辺観覧者数は過去最高の6万人となったが、無事故で多くの方に花火大会を楽しんでいただけた。

〈事前準備〉

①情報提案内看板設置

★新たな取組

〈緊急時案内番号システム〉

園路灯や護岸フェンス

計30箇所に設置

警察、消防、自治会と共有



〈事前準備〉

②仮設トイレ設置③臨時駐輪場設置

④展望広場歩行路確保⑤遊具閉鎖

⑥転落防止柵設置⑦さくら橋閉鎖

⑧車止め開放



《大会当日》⑨喫煙所設置 ⑩自主警備



《大会を終えての振り返りと課題》

- ・大きな事故等なし
- ・ゴミの量は4年前開催時より少なく想定内(90ℓ×15袋)
- ・シート固定用のペグや大きな石、レンガ等の放置多数あり
- ・施設内の破損、異常なし
- ・外国人観光客急増に対する対応強化が必要
- ・通信集中による局所的な電波障害発生への対応強化が必要



地域と共に多種多様なイベント開催



◆公園フェスタ「汐入まつり」開催

町会等と連携して、大規模イベント「汐入まつり」を開催。最新のダンスや音楽が楽しめるステージショーや、話題のグルメを堪能できるキッチンカーの誘致など、若年層が楽しめるプログラムを開催し、**2日間で約9,000人を動員し、地域交流の活性化に寄与**。日頃から町会との良好な関係を保ち、防災訓練等でも連携を図っていることがイベントの成功につながった。

【プログラム】K-POP等ダンスステージ、ゲーム、キッチンカー出店、ハーブフォトフレーム設置、ミニSL、ハンマーコング、ロングパットゴルフ、キッチンカー出店、スタンプラリー等



◆パラスポーツ体験会

パラリンピックレガシーを継承する取組として、**東京都障害者スポーツ協会と連携したパラリンピックスポーツ体験会を初開催**。参加者には、年齢や力などに左右されず、大人と子どもが対等に対決できることを身をもって体験していただき、障がい者スポーツへの理解と普及啓発を図った。

〈プログラム〉①ボッチャ ②ブラインドサッカー ③アキュラシー ④都立公園でやってみたいスポーツアンケート



スポーツの種類	点数
スポーツクライミング	23
サッカー・フットサル	21
陸上競技	13
テニス	12
野球・ソフトボール	11
アーチェリー	11
バドミントン	7
インラインスケート	6
ダブルダッチ	6
バレーボール	5
バドミントン	5
バレーボール	4

都立公園でやってみたい
スポーツアンケート実施

アンケート結果は次回イベントに活用

◆おはなし隊キャラバンカーの登場

東京都都市公園制度制定150周年記念事業「It's My Park Day! / 6月のテーマ読書日和」～おはなし隊キャラバンカー～を講談社と連携して**初開催**。親子連れ約100人が集まり、青空の下、読書ができる環境に子どもはもちろんのこと、保護者の方からも喜びの声を多数頂戴し、大変好評を得た。



キャラバンカーの登場
販売の創出

多目的広場のリニューアル



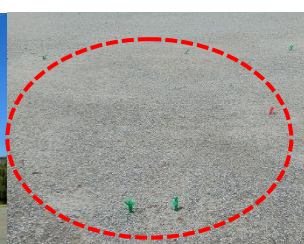
利用頻度が高い多目的広場のグラウンド補修工事を実施。

〈広場の状態〉防球ネットの老朽化、所々に繁殖した雑草、不陸等のグラウンドコンディション悪化

〈要望〉少年野球チームから荒川区に対して、ピッチャープレートの剥がれについて改修要望あり。

広場の利用調整を行っている荒川区に働きかけ、今回要望のあったピッチャープレートを含め、全体の補修工事への協力を要請。昨年からの協議を重ね、工事範囲を分担して行うよう調整役を果たした。

不陸整正は**状態が悪化する前に早めに施工することで、快適な利用環境を維持するとともに、ライフサイクルコスト削減**につながった。防球ネットと滑車、得点板も更新し、**利便性と安全性の向上**につなげた。



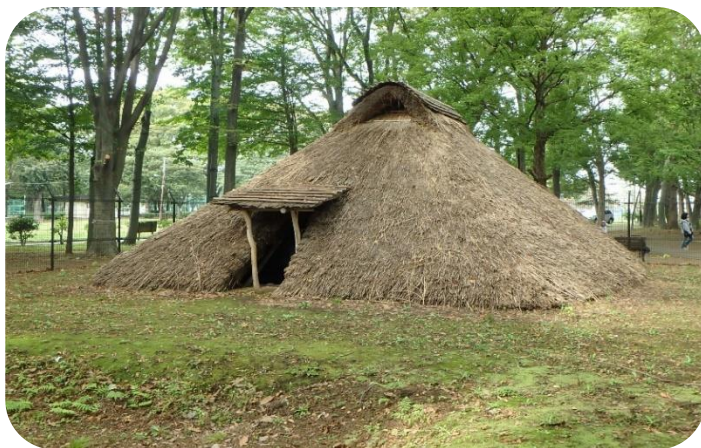
防球ネットと滑車の更新・ライン引きの「ポイント杭」を新設置



城北中央公園

所在地：板橋区、練馬区／開園面積：25.89ha

いつまでも愛される
みんなで育てる公園



積み上げて地域連携防災訓練へつなぐ「特別連絡協議会」



協議会へつなぐ調節池工事現場見学会

特別連絡協議会（拡大版公園連絡協議会）開催の成功に向けて、開会の2ヶ月前に板橋・練馬警察署、板橋・練馬消防署、板橋区町会長、練馬区町会長を見学会に招待。地域住民の防災の意識が高まり、協議会から12月の防災訓練へつなぐ大きな足掛かりとなった。

➡ 「また参加したい」との感謝多数！



参加者は29人。協議会、防災訓練への布石になった。（7月6日）

防災訓練へつなぐ特別連絡協議会

地域連携防災訓練を円滑に進めるため、7月の見学会に続いて近隣町会から計30人が集まった。協議会の中で町会長からは、公園が主体的に訓練の計画を立てることで地域の信頼感がより高まったと好意的な意見が出された。

➡ 近隣町会と連携した防災訓練（12月）へつなげた！



参加者30人から合意形成が得られ、いざ訓練本番へ。（9月28日）

スポーツ施設更衣室をリニューアル！



快適な利用空間の創出

有料スポーツ施設利用者のための更衣室は老朽化が進み、清潔感を維持するために、コインロッカーの外装補修を実施。併せて、利用者には高齢者も含むことから座って着替えができるよう、**長椅子を新設**し利便性や快適性の向上や施設の長寿命化につなげた。利用者からは「椅子が超便利」「使いやすくなった」「着替えが楽になった」「キレイになった」等の**感謝の声**をいただいた。



ヒノキ調と椅子で清潔感と利便性向上

外装補修に併せて長椅子を新調！
快適性や利便性の**相乗効果**を発揮！！



男性更衣室



女性更衣室



地域と協力して伝統と歴史的遺産を活かした「古代フェスティバル」



練馬区の学芸員による 栗原遺跡の紹介

都立公園開園150周年に合わせて、前年度の1定員100人（20人×5回）から、今年度は定員を150人（30人×5回）に拡大。急遽の申込にも対応し、計190人の参加。

増員の負担は職員が学芸員をサポートすることで参加希望者の受け入れ拡大につなげた



練馬区学芸員による遺跡解説（190人）

板橋区の学芸員による 茂呂遺跡の紹介

茂呂遺跡は定員制（予約なし）を導入。参加者が好きに選べる2つのコースを用意。学芸員による貴重な遺跡の特別公開に総計346人が参加。

今年度はじっくり体験と時短可能な簡易体験の2コースを用意



板橋区学芸員による遺跡解説（156人）

子どもたちに呼びかけ 次のイベントに招待

「おえかきセット（紙とクレヨン）」20セットを希望する子どもたちに先着配布。オータムフェスタでの遺跡の絵の募集・展示を案内し、参加者を拡充。

オータムフェスタで子どもたちの絵を10点展示



次のイベントのときに持ってきてね

3ステップの集大成！ 町会やボランティアと地域の課題を共有！



町会等の協力なくして実現不能！

練馬区3、板橋区18、計21町会に働きかけた結果、練馬区3、板橋区7の総計10町会が防災訓練に参加。桜川町会が防災普及啓発ブースを出展。公園ボランティア12人も含めた支援が大きな力となり、地域連携と防災の協力関係が深まった。



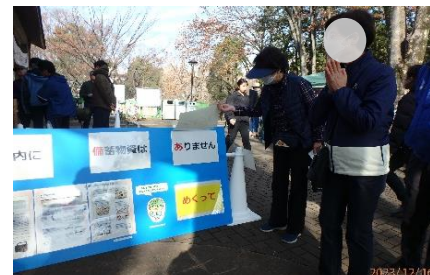
掲示板へのポスター掲出（5町会）（初）

防災訓練初づくし！ 訓練や啓発の実施！

12/6の初開催にあたり、停電を想定した参加者同士の情報伝達訓練を実施したほか、公園の備蓄物資の有無や防災施設について説明。都立公園150年に因み、ボランティアによりかまどベンチを運用し、**焼きそば150食**を提供。消防関係者等の協力者を含めて、計285人参加。



停電を想定したプラカード掲出訓練（初）



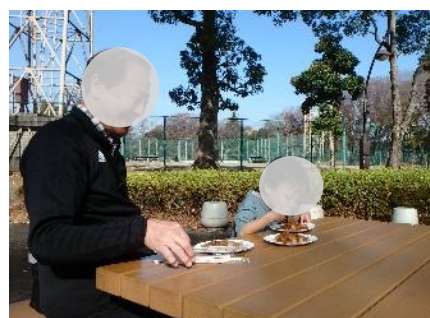
備蓄の大切さを伝え、自助の意識を醸成（初）



板橋区の起震車を桜川町会が支援（初）



ボランティアが「かまどベンチ」を運用（初）



150周年で150食の焼きそばを提供（初）



光が丘公園

所在地：練馬区、板橋区／開園面積：60.78ha

地域に密着した管理・運営
協力団体と一緒に
“地元の公園”をつくる



関連団体が集結！楽しい企画満載の「公園フェスタ」



木登り、動物、車、どんぐり工作、グルメ…etc 親子で丸1日楽しめるイベントに！



各ブースに長蛇の行列

秋の恒例イベント『光が丘公園フェスタ』を開催。実際に公園で使用しているトラクターや草刈ロボットの展示、公園で活動するツリークライミングの団体、太極拳、ヘブンアーティストのパフォーマーなどが一挙に集結。子どもと家族にねらいをしばったプログラムにした結果、1組の家族が複数のプログラムを楽しめ、滞在時間が長く、満足度が高いイベントとなり、**2日間で約4,000人が参加**するなど大盛況のイベントとなった。昨年度参加した6団体に加え、近隣商業施設IMAや練馬清掃事務所等、**新たに9団体が参加**することで、**地域交流の拡充により賑わいを創出した**。

コナラの植樹

どんぐり祭り（どんぐり工作、秋の実ビンゴ、観察会）が好評で、中でも観察会のツアーにはコナラの植樹を組み込み、ナラ枯れで本数が激減したコナラを2日間で**10本の苗を補植**した。参加した親子からは「数年後が楽しみ」と未来につながる活動となり、**公園への愛着の醸成**につながった。



世代間交流を後押し！「プレーパークフェスティバル」



プレーパークを運営するNPOと公園で活動する紙ヒコーキ愛好家の高齢者グループと連携した**新たな**イベントに140人が参加。子どもから高齢者までの**3世代が交流**することで、地域や子育てへの貢献と、やりがいや生きがいの場を創出し、**地域活性化**に寄与した。





ボランティア活動の活性化、ちょいボラ拡大



公園のメインストリート、ふれあいの径に新規花壇を造成

商業施設に隣接し、人の流れが多いふれあいの径に新たにボランティア花壇を造成した。春の耕耘作業、秋の植え付け作業でちょいボラ参加者を募集。7人が職員と共同作業で「都立公園150周年」の「150」の文字を描くなど、都が推進する事業のアピールに寄与することができた。



花壇ボランティアなど、関係団体との連携を強化

コロナ禍で活動を自粛していた各団体の活動を支援した。特に警察や練馬明るい社会づくりの会等4団体と「見通し確保の下枝落とし」を行い、園内の安心安全の確保につなげた。団体と実施場所を話し合い、効果的な実生木の除去、落葉清掃などで公園美化や環境が向上した。



給水圧力タンク破損で断水。組織力を挙げて早期復旧と利用者対応



8月末～9月上旬にかけて、給水圧力タンク破損により飲料水がほぼすべてSTOP。本社、エリアと連携し、他系統へのバイパス工事により**最短で復旧し、今後同様な故障が起きても断水しない給水系統も一部確保した**。断水中は、利用者への周知徹底、手洗い用プッシュ式アルコール設置、臨時給水所を設置するなど、**利便性の低下を最小限に抑えることができた**。



臨時給水所



新設した圧力タンク

老朽化したスポーツ施設を計画的に補修＋改善



老朽化が著しい弓道場を始め、陸上競技場、ゲートボール場などのスポーツ施設の補修を計画的に実施。補修するだけでなく、利用者の声を傾聴し、**補修＋改善（不陸補修＋除草、除根等）**になるよう計画・施工をすることで、**快適な利用環境の向上**を図った。



陸上競技場（走路の拡張）

コロナを乗り越え参加団体が拡大。“共助訓練”を次の世代へ



小学生から高校生、子育て世代へと広がる“共助”の輪

光が丘で受け継がれてきている“共助訓練”を若い世代に拡大した。NPO法人みどり環境ネットワーク！と連携した訓練では、小学生にかまどベンチでの火起こし術を伝授。都立田柄高校とは初めての連携訓練を実施し、2、3年生約250人が火起こし、マンホールトイレ組み立てを体験した。3月には恒例の「防災フェスタ」を実施、戸田中央看護学校の生徒30人が応急手当訓練と、会場スタッフとして参加するなど、**地域防災の担い手育成**に大きく貢献できた。





舎人公園

所在地：足立区／開園面積：64.96ha

子ども達の元気な声と
笑顔があふれる舎人公園



新たな訓練内容を取り入れ地域防災力向上へ

関東大震災100年
関東大震災100年
関東大震災100年



◆警視庁警備部の全面協力のもと地元4警察署合同の救出救助部隊による本格的な訓練実施

「外国語学院の協力による外国人への災害情報提供訓練」、「電気自動車を使用した災害時電源運用訓練」の2つの訓練を新たに導入し、地域連携防災訓練を実施。今回初連携した重機会社、自動車販売店、生命保険会社、外国語学院、テント製造販売会社等、**地域団体が集結**し、警視庁警備部指導のもとで**自分たちができる「共助」**を学び経験し、**災害時の地域連携力が向上**。

〈プログラム〉

- ・大規模水害を想定し倒壊家屋や故障車両からの救出救助活動を主体とした訓練 ・近隣幼稚園を招いた避難誘導訓練
- ・外国語学院の協力による外国人への災害情報提供訓練 ・電気自動車を使用した災害時電源運用訓練



緊迫感のある瓦礫撤去訓練



園児たちにもわかりやすく説明



初取組!電気自動車の活用

〈連携〉警視庁、竹の塚・千住・西新井・綾瀬警察署、(株)機電サービス、トヨタモビリティ東京、(株)エアロテック、ALCC東京学院、第一生命保険(株)、とねり伊藤幼稚園

◆楽しく体験・みんなで学ぼう～舎人公園防災フェス2023開催～

地域団体や企業等と連携し、「防災フェス2023」を開催。関東大震災から100年の節目にあたり、体験型プログラムを充実させ4年ぶりに大規模開催。今回初めてトヨタモビリティと(株)エアロック、2社の誘致に成功し、計10団体にご賛同していただき、それぞれの強みを活かした大規模なイベントを実現。**自治体、企業のHPの告知効果もあり、約15,000人が参加**。特に、体験型プログラムは災害時の自助、共助について楽しく学べると大変人気を博した。このイベントを通じて、自治体や企業との連携強化はもちろんのこと、**地域一帯の防災対応力向上につなげた**。

〈プログラム〉

- ①起震車・消火訓練
- ②パトカー・白バイ展示
- ③自衛隊車両展示
- ④防災グッズ、震災時水道利用の紹介
- ⑤ロープワーク・防災クイズ
- ⑥煙体験・防災トイレ紹介
- ⑦電動自動車による給電ステーション
- ⑧震災時の大型エアテント展示
- ⑨防災ワークショップ
- ⑩ペット避難訓練
- ⑪防災展示
- ⑫関東大震災100年特別上映会



企業協賛のエアテント



関東大震災普及啓発動画視聴に大行列



大迫力のブローワー車

〈連携〉西新井消防署、竹の塚警察署、自衛隊、足立区役所、トヨタモビリティ東京★、(株)エアロック★
足立区ボーイズスカウト・ガールスカウト協議会、足立区日本防災士の会、東京都水道局、ボランティア(★：初連携先)



公園魅力向上プロジェクト～赤ソバ・白ソバ花壇～



ネモフィラ花壇を活用し、斜面地2,039㎡に、「高嶺ルビー」と、白い花のソバの2色の「ソバ花壇」を整備。見ごろには赤と白の絨毯が広がり、**地元新聞社に掲載していただいたほか、SNSで話題となり、日に日に情報が拡散し、「ソバ花壇」を目的に来園される方が増え話題となった。**また、**交通局に働きかけ、舎ライナー1日乗車券をサービスセンター窓口で提示すると記念品をプレゼントするコラボレーション企画を実現させ、相乗効果を狙った。**さらに、来園者がアクリル板に絵を描いていただき、花壇内に設置した「花壇美術館」や「花摘みイベント」のプログラムも好評を博し、公園の魅力向上に貢献。



赤ソバと白ソバ花壇



職員制作のフォトスポット『どこでもドア』
GoogleMapsにも登場
地元企業や利用者のSNSで拡散され話題に！

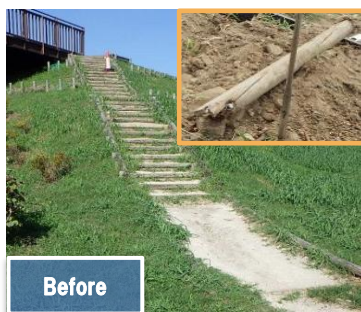


利用者目線と効率性を重視した維持補修



◆ビュースポットへのアクセス改善

足立区で一番標高が高い「あさひの広場」は、人気スポットであり利用頻度が高い。階段枠は木製であったため劣化が早く、部分補修を繰り返していたが全体的な腐朽が目立ってきた。今回の改修で階段全面は耐久性に考慮して擬木を使用し、**長寿命化を図った。快適性・利便性を向上させ、人気スポットのさらなる利用促進につなげた。**



Before



After

◆漏水時等への備え～止水バルブの新設～

B地区北西エリアー帯についての漏水対応や給水設備工事等による止水は、直結増圧ポンプのバルブで対応していたが、この手法はバルブの負担が大きいことや、止水後、再復旧させるためには水道局指定業者に依頼が必要で時間がかかっていた。今回止水栓を新設したことにより、直結増圧ポンプの漏水やトイレ、水飲みの補修等の緊急時にも**直ぐに水を止めることができ、迅速な対応が可能となった。**



新たに設置した止水栓

◆D地区安全・安心・景観向上大作戦

近年、警察より不審者出没の情報が入ることが多くなり、D地区全域で共同作業を実施。笹刈り、下枝を払うことにより、D地区全体に広く光が入り、園内の見通しが見違える程改善し、**防犯効果を発揮した。**来園者からも「とても明るく綺麗になった」と感謝の声をいただいた。



Before



After



水元公園

所在地：葛飾区／開園面積：96.68ha

生物多様性を守る
緑と水の憩いの水元公園



公園を核とした防災普及啓発活動

関東大震災100年
2023

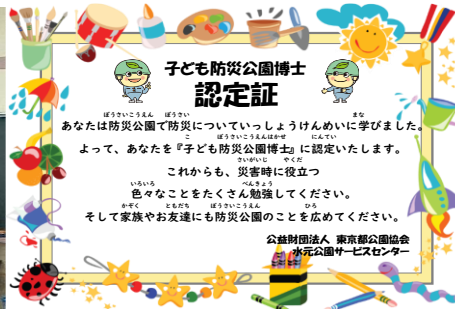
3
防災に関する
知識を学びます

4
防災に関する
知識を学びます

11
防災に関する
知識を学びます

◆先生からも根強い人気「防災出前授業」

葛飾区立東水元小学校2年生34人に向けて、防災出前授業を実施。職員が制作した子どもでもわかりやすいスライドを使用し、避難時の流れや、防災公園としての役割や防災施設について知識を習得していただいた。当日は公開授業のため保護者も参加しており、子ども達や保護者へ、命を守る行動や避難場所など防災力向上に貢献。この授業が保護者や先生からも好評で、1年生を対象とした出前授業の要請があった。1年生には防災のほか、水元公園でみられる生きものについて紹介し、豊かな自然の魅力を知っていただく機会を提供。



◆地域連携協議会の開催

葛飾区危機管理課と連携し、地域連絡協議会を開催。葛飾区の定める水害時の避難行動について、連合町会長はじめ9町会の会長が参加して勉強会を実施。水害への備えについての活発な質問や意見を交換した。今後、地域の防災対応力向上・普及啓発のための訓練やイベントを協働で開催していくことで一致。



◆防災意識の啓発「防災まつり」



葛飾区地域防災課、葛飾防災情報ネットワーク、亀有警察署、金町消防署・金町消防団、東京都水道局、前澤化成工業(株)、東日本電信電話(株)、明治安田生命保険相互会社9団体と連携し、「防災まつり」を開催。車両展示や防災パンチョ作り等の体験型ワークショップなど、発災時に役立つプログラムを多数提供し、地域防災力向上に貢献。



公園の魅力発信と地域をつなぐ取組



◆ハナショウブの維持管理と魅力発信

これまでの知見を活かした計画的な維持管理に加え、状況に応じた手法を導入。適切な時期の薬剤散布、罹病株の抜取り除去、施肥割合の変更、連作障害低減の耕耘厚変更、水張時期の調整、日本花菖蒲協会から専門家を招聘し現地検討会、専門家による品種同定等を実施。また、技術交流として、対岸のみさと公園には株分けに関する技術指導や株譲渡を、青梅市吹上しょうぶ公園には管理状況見学や株交換を実施。そのほか魅力発信として東京水辺ラインと連携し、水上バスイベント便に水元公園ハナショウブを初めてルートに導入したガイドツアーや、「花柄摘み体験」等を開催。都内最大規模を誇る花菖蒲園のさらなる魅力向上に努めた。



除草作業

日本菖蒲協会顧問による現地検討会

技術指導

職員によるガイドツアー

花柄摘み体験

咲き誇るハナショウブ

◆地域との交流や出会いを促す取組み

企業等10団体と連携し、「ふれあいフェスティバル」を開催。花・緑・自然等、水元公園の魅力伝え、幅広い世代の方々にボランティア活動の活性化や公園の魅力向上、利用促進につなげた。今年は、150周年記念として特別アンバサダーである「うえのん」を誘致。昨年の2倍を超える約16,500人が来場。葛飾区一大イベントである「2023葛飾菖蒲まつり」への協力、参加や金町消防団（各分団11隊）と消防操法大会に参加など積極的に地域交流を促す役目を果たした。

〈プログラム〉・150周年PRブース ・ステージ ・苗木配布、販売 ・外来種展示池 ・バッテリーカー乗車体験・譲渡会
・バックウォーク ・健康相談 ・キッチンカー出店（3台）



金町消防団鼓笛隊

ステージブース

都立公園制定150周年記念ブース

計画的な維持管理



直営による高所作業車を使用した作業を28回実施（昨年度実施17回）。年間の剪定・枯枝処理本数は600本。メイン園路沿いの枯枝除去により落枝事故発生を未然に防止。夜間パトロールで発見した園路灯照明に支障となる高木徒長枝を計画的に剪定することにより、安全と景観に配慮した樹木管理を徹底。また、直営作業により臨機応変な対応と効率的な樹木管理につなげた。

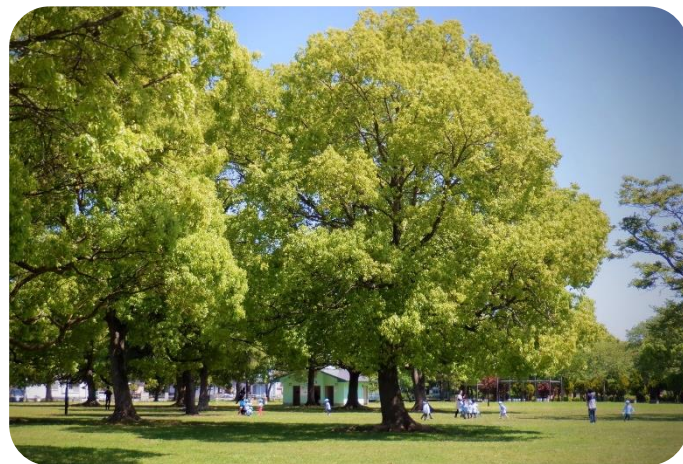




篠崎公園

所在地：江戸川区／開園面積：31.27ha

地域の和をつなぐ 篠崎公園



公園が地域防災の核に



◆公園防災日和「関東大震災100年イベント」開催

関東大震災発生から100年の節目の年という事で、避難場所等に指定されている公園・庭園・霊園46箇所にて防災普及啓発活動を実施した。篠崎公園では町会へのチラシ配布やSNS等で積極的にPRしたことにより、普及啓発動画放映に**135人**、防災施設をめぐるウォークラリーに**122人**の参加者が集った。



◆地域連携を強固なものに「地域連携防災訓練」

江戸川区や警察署、消防署、近隣自治会等と連携し、防災訓練を実施。地域住民自ら率先して災害支援活動ができるよう実践的な訓練内容とし、地域一体で防災のスキルアップを実現。**前年比120%の約260人の参加があり、「地域住民」、「公的機関」、「防災公園職員」が三位一体となった体制を確認し、篠崎地区の防災力向上につながった。**



江戸川区花火大会への対応～花火観覧者の安全確保を第一に～



4年ぶりの開催となった江戸川花火大会開催にあたり、これまでは実行委員会の警備範囲が公園内まで及ばず混乱が生じていたため、予め以下の3点について強く明確に要望提案し、協議を継続し、実現にこぎつけた。**公園側の自主警備負担を軽減しつつ、園内での大きなトラブル等はなく安全に花火大会を終えることができた。**

<公園からの提案>

- ①新設の区道を歩行者専用とし、中央にコーンとバーでラインを設定とする対面通行
- ②高台化工事により2ヶ所のトイレが使用不可のため、園内に仮設トイレを多数設置
- ③人が密集するエリアへの警備配置強化



仮設トイレ12台設置



場所取りルールの徹底

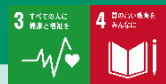


園内秩序を維持

場所取り等のルールを統一、事前周知と掲示物の強化を徹底することで、苦情もなく十分な理解を得ながら運営することができた。



篠崎公園ファン続々出現！！～千客万来イベントの開催～



◆4年ぶりに大規模開催「ふれあいフェスティバル」

子育て世代からシニア世代まで、幅広く楽しめるコンテンツを盛り込んだ「ふれあいフェスティバル」を開催。相撲体験やちゃんこ配布、ストリートバスケット大会、ハーブリース作りなどの9つの催しと、4店のキッチンカー出店。近隣小学校、幼稚園14校、3町会にチラシを4,100枚配布し積極的なPRを行った結果、前年の2倍の約3,000人が来場し、イベント満足度は90%と高く、公園が地域コミュニティの場として笑顔が溢れる1日となった。



◆パークビューの魅力発信「アジサイまつり」

今年は縁日をテーマとし「アジサイまつり」を開催。毎年職員が趣向を凝らしたプログラムを提供。今年は、子育て世代からシニア層まで参加対象を幅広く設定した企画、「縁日コーナー」や「野点」等、新たなプログラム企画が功を奏し、開始前から長蛇の列。園内のアジサイを活用した押し花キーホルダーは、クイズ景品としても、工作教室としても大好評。篠崎公園のアジサイに興味を持つ機会を提供。今年の参加人数は前年の3倍の約1,500人、イベント満足度は90%。



利用者ニーズへの柔軟な対応



◆早朝テニス利用枠新設

高台化工事により使用可能なテニスコートが縮小した。利用者から複数要望を頂戴したため、早急に東京都と協議。6月より「早朝テニス枠」をスタートさせた。速やかに利用者ニーズに応え、利便性向上を図った。

◆ユニバーサルデザインゲート

車いすを利用されている常連の方から、園内に入る際、迂回しているとの貴重な声を頂戴し、ユニバーサルデザインゲートを新設。大変喜んでいただき、快適性・利便性向上を図った。





葛西臨海公園

所在地：江戸川区／開園面積：77.85ha

人と文化と生きものが集い
新たな魅力をつくる公園



公園から始まる地域価値の向上



ART Marché in KASAI Seaside-Park

駅からクリスタルビューまでをフランスのテアトル広場に見立て、「**伝統・文化・芸術・地域**」をテーマに**アートマルシェ**を初めて開催。公園協会と、地域で活躍する団体を中心に立ち上げた実行委員会で実施し、公園から地域の活性化を図った。江戸川区を拠点に活動するアーティストの作品や、風鈴や陶器などの地元の伝統工芸品、地域の障がい者支援施設が生産した花苗の販売などのほか、自由に参加できるワークショップメニューも豊富で、「**公園に新しい名所ができた**」と来園者に喜ばれた。



出展数 **30** 団体

来園者約 **4,000** 人

大人も子どもも楽しむ、葛西臨海公園の一日



葛西臨海公園に動物園がやってきた！

小動物とのふれあい動物園とポニー乗馬のイベントを、公益財団法人えどがわ環境財団と共催。小動物とふれあう子どもたちの顔は笑顔にあふれ、参加者は**昨年比193%**と多くの子どもたちに喜ばれた。

水仙の名所が集まり賑わいを！

下田市、福井市、鋸南町の協力を得て開催した**水仙まつり**は、各地の郷土料理のおもてなしや勇壮な下田太鼓の演奏などで大いに賑わった。約5万7千球のスイセンが花の少ない冬場の利用創出に繋がった。



ポニー乗馬
1,026人参加

たくさんの子供たちが並んだ乗馬イベント

会場に響き渡る下田太鼓

水仙まつり
来園者約 **13,000** 人

満開のスイセンと賑わう会場

地域の子どもたちと咲かす復興ヒマワリ

防災公園の意義、災害や命の尊さを伝える

阪神大震災由来のひまわりの種「はるかのひまわり」を、近隣の区立臨海小学校の全校児童や臨海保育園児と一緒に、約1万粒を播種し花壇づくりを実施。種を蒔く前に、ひまわりの由来を子どもたちに解説して命の尊さを伝え、**防災公園として大地震を風化させず次世代に継承した。**



453人の子どもたちが参加



鳥類園の生物多様性を知り、自然を学ぶ



新発見に沸いた市民参加型調査

専門家と行う市民参加型調査と観察会を実施。今年は、東京都の絶滅危惧種であり、**近年東京都での発見記録がない水生昆虫「ゴマフガムシ」**を参加者**自らが発見**。専門家による最新の研究成果も発表し、大いに盛り上がった。参加者自らが鳥類園の自然を体験し、生物多様性の豊かさを知ること、新たな鳥類園ファンの獲得に繋がった。



大盛り上がりの観察タイム



専門家によるポスター発表

観て聴いて触って学ぶ、生物の多様性

子どもたちの夏休み期間に、今年初のゴールデンウィークと冬休みを加え、**昨年比約1.6倍の合計58日間**、子どもたちに人気の高い「鳥類園ひみつきち」を開催。期間中**延べ8,348人**が鳥類園を訪れた。他にも、SDGs Fesでの展示、小学校への環境学習の提供などで、子どもたちが公園の生きものに触れて、自然を学ぶ機会を増やした。



夏休み中のミニツアー



小学校への環境学習提供

地域防災力の向上と、海から見て水害を学ぶ



公園の防災機能を体験から学ぶ

近隣11町会や障がい者福祉施設のほか、江戸川区青少年委員会や区立臨海小学校と、公園の防災施設を使った防災訓練を延べ182人と実施。**多様な団体と訓練を重ねることで地域の防災力向上**を図るとともに、一時避難場所として発災時に避難してくる被災者を救助する、職員の対応力の向上につながった。



区立臨海小学校の防災学習



地元連合町会との訓練

園路の下の防潮堤

関東大震災100年を機に、海上から公園を見て防災を学ぶ機会を提供。三方を海や河川に囲まれた公園は高台になっており、園路には**防潮堤**が埋設され、**高潮・津波から街を守っている**ことを学んでもらった。避難場所としての機能だけでなく、街を守る役目が公園にあることに、参加者も驚いていた。



区青少年委員会との訓練



船に乗り海上から水害を学ぶ

障がい者にやさしい公園づくり



東京2020大会のレガシーを引き継ぐ障がい者誘導施設

昨年度に引き続き、駅からサービスセンターまでであった視覚障がい者誘導施設を延伸し、サービスセンターからカヌー・スラロームセンターまでの**526mの園路**に視覚障がい者誘導施設を敷設。駅からカヌー・スラロームセンターまでを1本で繋ぎ、**視覚障がい者にやさしい園内誘導**を実現させた。





武蔵野中央公園

所在地：武蔵野市／開園面積：11.24ha

青い大空と緑の原っぱで
みんなが笑顔になれる公園



過去の災害から学び、伝える「防災の取組」



武蔵野市と連携した「はらっぱ防災フェスタむさしの」

武蔵野警察署・陸上自衛隊と連携し、防災フェスタを開催。武蔵野消防署等と連携した初期消火訓練、炊出訓練等 **関東大震災から100年** を契機とした自助・共助について、楽しみながら学ぶプログラムを実施し、防災公園の役割を普及した。



●地域住民がバケツリレーを体験することで、共助の心を養い地域の結束力を高めた。

新規に3団体を拡充
協力団体24団体
来園者約2,000人

●避難所で簡単に作れる「おむつ作り」を実施し、参加の赤ちゃんに備蓄できる液体ミルクをプレゼントし子育て世代に普及啓発した。



若い世代に伝える「キッズ防災」

能登半島地震での課題を踏まえ、キッズ防災を実施。避難所で直面する「トイレ」の問題について参加者と考え、近隣の千川地域防災会と協働でトイレの確保・トイレの備えを普及した。また、耐震固定の重要性に関する展示や、職員による手軽に用意できる簡易トイレ・ランタン作りのワークショップを行った。



●消防士から子どもにも、発災時の様子も分かりやすく説明していただいた。



「紙飛行機の聖地」で芝生地の多面的活用&歴史ガイドツアー



わんぱくあそび2023～模型飛行機フェスティバル × むかしあそび～

ボランティア団体と連携し、都市公園制度制定150周年を記念した紙飛行機づくり教室や昔遊びを実施。

中島飛行機製作所に関するパネル展示や「武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会」作成の資料配布、職員によるミニ歴史ガイドツアーにより、公園への愛着を醸成した。



150人による「150機」の紙飛行機飛ばし



150m竹馬完歩



地域で盛り上げ、“五感で楽しむ”ガーデンショー



Tokyo park
150 years



ガーデンショーはなまつり2023

武蔵野東小学校や近隣住民との協働で、都立公園をモチーフにした花文字花壇を手作りした。当日は、自然観察会、ハーバリウムづくり等のワークショップ、150周年クイズ&花みくじ等の様々なプログラムを実施。昨年のアンケート調査で要望の多かった「花苗の販売」と「キッチンカー」は、地元の企業へ出店を呼びかけ、**地域連携を強化するとともに、参加者の満足度が向上した。**



フラワーセラピストによる
五感を使った自然観察会



公園の花を使用し、
植物の魅力を伝える
ワークショップ



初実施！
花壇のイルミネーション



近隣の花屋による出店で
新たに地域連携を強化！

武蔵野の原風景と文化を次世代の子どもと守る！ 生物多様性の取組



地元の小学生と一緒にいきもの保全活動

大野田小学校との協働で希少植物の移植や観察窓付エコスタックを新たに作成し、雑木林の保全活動を通じて腐葉土の中の生態系を学び、生物多様性保全を次世代へ伝承し貢献した。



初連携

ススキ刈りボランティア～文化継承と希少種保全～

芋名月・栗名月に合わせて武蔵野台地のススキ原の植生や河原の氾濫環境を再現するためススキの伐根や刈取りを地元住民と協働で実施。刈取ったススキを使用して、お月見イベントを開催し、武蔵野のお月見文化の継承に加え、カワラケツメイ等希少種の生育環境が改善した。



カワラケツメイ
生育面積3割増！

野外卓周辺の改善！車椅子でも快適に！

野外卓周辺の環境改善で車椅子の利便性向上

利用者の声や利用状況を把握し、その中でも利用率の高い東園の芝生地内の野外卓において、その周辺及び園路からのアプローチを舗装した。また、園路側1辺の椅子を外すことで車椅子のままテーブルが利用できるようにもなり、**車椅子利用者がくつろげるスペースが拡充**し、快適に公園を利用できるようになった。

利用者からは感謝の声を多数いただいた。

Before



After



東園でもくつろげる！

熱中症対策



テニスコートにミストシャワー設置

テニスコート内のベンチやスポーツ施設の入口等、利用者が集まりやすい場所に「ミストシャワー」を設置し、利用者の安全性を高めた。また夏の間、日々暑さ指数（WBGT）と熱中症アラートのレベルを掲示し、周知した。



快適なプレイ環境♪

「ミスト効果を感じた！」と感謝の声



府中の森公園

所在地：府中市／開園面積：17.14ha

誰でも参加できる
イベントが盛り沢山！
芸術と文化の公園



新たな試み！人と人をつなぐ「にじのかけはしプロジェクト」始動



遊具広場を地域の人々で見守り・利用促進

遊具広場にて、地域住民やボランティア団体の協働による誰でも参加できるイベントを毎月実施。障がいの有無・年齢・性別・国籍等も分け隔てなく皆で遊び、**来園者同士の交流の機会を創出**する「にじのかけはしプロジェクト」を始動した。イベントに携わったボランティア等を通称「**にじかけさん**」と呼び、**地域で子どもを見守る仕組み**を構築した。



来園者が選べるイベント
・折り紙リリースづくり
・出前保育
・絵本読み聞かせ
・昔遊び、草笛など



多国籍な参加者も！



にじかけさんが意見交換！

にじかけさんや近隣施設の関係者が集まり、公園連絡協議会を開催しました。「遊具広場に行くのに勇気がいる」「一緒に遊んだりできるか不安」という声もある中、様々な団体が関わることで来園者が自ら選択し、**にじいろ広場に来園できるような仕組みや誰もが遊べるためのプログラム**について、アイデア等を話し合い、地域の人々で遊具広場の普及啓発やインクルーシブマインドの醸成に取組む事とした。



にじかけさん14人
事務局10人

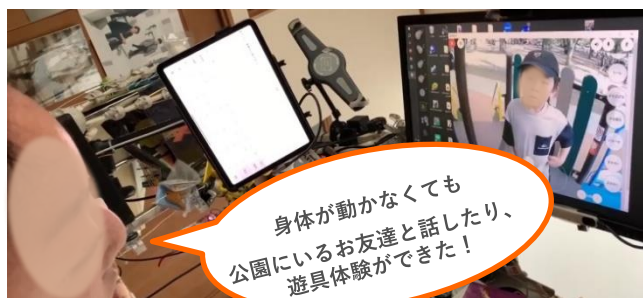


DX活用による魅力的な遊具広場



DX活用による遠方での遊具体験と交流！

秋の遊具体験会で分身ロボット OriHimeを導入し、会話や遊具体験が難しい利用者間で交流した。また、遠方の来園困難なお友達と遊具広場を繋ぎ、交流しながら、自宅で遊具を楽しんで頂いた。



身体が動かなくても
公園にいるお友達と話したり、
遊具体験ができた！

※OriHimeは、公園と遠隔地で利用者同士がコミュニケーションとれるロボット

遊具の普及啓発アプリ

障がいのある利用者や職員にヒアリングし、誰でも使えるアプリを開発。遊具広場でアプリ内のビンゴを完成させるとノベルティを贈呈し、遊具の混雑緩和を図った。**読字障害や色弱者等に配慮したフォントや配色**



都の政策と連動

自治体・管理者向け遊具情報連絡会の開催

インクルーシブな公園づくりに向けて、遊具情報連絡会を開催。全国の自治体職員等86人が参加。にじいろ広場の管理運営や利用促進について共有した。





サッカー・ラグビー・ホッケー場 リニューアルキックオフ！



府中市と連携し、運動施設を活用したイベント開催
都の改修工事が完了し、4月の供用開始に合わせたオープニングイベントを府中市と連携開催。府中市を活動拠点とするスポーツチーム・4団体による**スポーツ体験プログラム**や市美術館や生涯学習センターと連携した観客席裏の黒板を利用した**チョークアート**を実施し、3,000人が来場し、施設の愛着を醸成した。

オープンに併せて施設の愛称をスポーツ団体の協力のもと利用者より公募し、「**府中の森フィールド**」に決定！



施設補修による安心安全、魅力向上



どうぶつたちがやってくる！

横断側溝設置による冠水解消

園路が冠水しないよう横断側溝を整備し、安全な環境に近隣住民より感謝の声を頂戴した。



レイズドベッド花壇設置、売店前花壇リニュアル

売店前に体幹の弱い方や車椅子でもガーデニングが楽しめるレイズドベッド花壇を新設。花苗の植付体験では、子どもから車椅子の高齢者まで参加し、誰もが楽しめる憩いの場生まれ、売店周辺の景観も向上した。



動物ふれあいフェスタ開催

東京農工大学と連携してミニホースや小動物との触れ合いの場を提供した。都立公園制度制定150周年記念事業とし、150人の参加者に公園オリジナルポストカードを贈呈。学生制作の動物クイズや絵本の読み聞かせ等を同時開催し、公園の魅力向上に寄与した。



インクルーシブな防災訓練と地域の防災意識の向上



要配慮者を対象とした地域連携防災訓練

都立けやきの森学園の生徒等、要配慮者を対象に地域連携防災訓練を実施。バリアフリールートを説明し、発災時の要配慮者対応について確認しました。



公園から広げる、地域の防災意識の向上

センター職員が緑町睦月会・浅間中学校・緑町自治会等に訪問し、防災に関する出前講座を開催。

売店内の防災情報コーナーも町会と内容を一新し、地域住民に防災に関する普及啓発を行いました。





武蔵野の森公園

所在地：府中市、調布市、三鷹市／開園面積：38.57ha

利用マナーや子育て支援を 地域で見守り育てる公園



自転車マナーアップキャンペーン

危険な箇所を改善



出入口の自転車スピード危険走行に関する長年の住民要望について、東京都と連携した住民との現場立会い等の折衝を経て、**一時停止の注意看板やポールを新設**した。併せて府中市役所や警察と連携した自転車マナーアップキャンペーンを実施し、自転車利用者に適正速度等のマナーアップを呼びかけ、来園者の安全確保につなげた。

自転車マナーアップキャンペーン

公園の入り口で地元住民および警察と協働で、自転車利用のマナーアップキャンペーンを実施した。死角になっている場所の危険予知等を普及啓発した。



園路入口に看板・ポール設置し利用者間の衝突事故を回避



正門 ポール設置前



正門 ポール設置後



掩体壕口の看板・ポール



正門の看板・ポール

園内の適切な管理

絵本と歌の庭 始動！



ようこそ！の気持ちを込めて維持管理

重点巡回で、塗装の劣化や柱板の剥がれなどの不具合箇所を確認、再塗装や板の交換補修により安全と美観を確保した。

■展望の丘 展望台

飛行場が見える人気の展望台の美観を向上し、公園の魅力を一層引き出す維持管理を行った。



塗装前

塗装後

生物多様性の保全に関する取組

のびのび親子館に配架した絵本や手遊びの歌に出てくる動植物を園内の花壇で植生する「絵本と歌の庭」花壇を整備。この花壇は、絵本の世界と実物の動植物の生態系をつなげ、生物多様性の保全をやさしく学ぶ機会を提供。スタート事業として、地域の子ども達と一緒に自分の掌を花やチョウに見立てて模造紙に手形を押しアート作品を作成するイベントを開催した。

参加者33人の子どもの手形を蝶々に見立てた



花やチョウを手形アートで



絵本の読み聞かせ



地域コミュニティとの連携で、より親しまれる公園に

3



4



戦争の遺跡や記録を次世代へ受け継ぐ取組

近隣の小中学校の地域学習や府中市民アカデミーの戦争遺跡見学会に協力し、掩体壕や輸送機プロペラの見学やボランティアによる解説を実施し、地域の歴史を伝承した。また、八王子高専・釧路高専等による三次元計測調査に協力し、3Dデータの取得に成功した。3Dデータを活用した戦争遺跡の紹介を行い、風化することのないよう大切に管理を行った。



地域学習（戦争遺跡見学）
小中学生330人へ歴史を伝承



掩体壕調査 教諭6人、
生徒4人で3Dデータ取得



3Dデータ
大沢掩体壕2号 俯瞰図

地域と連携した防災訓練を実施

3



11



17



三鷹市・府中市・調布市、各市の総合防災訓練に参加

近隣の病院や企業、町内会と協働にて合同防災訓練を実施し、近隣外语大学の学生にも普及啓発した。また、都立府中けやきの森学園の防災訓練に参加し非常時のポンチョ作りなどワークショップを行い、相互に防災力向上と連携力を強化した。隣接する三鷹市、府中市、調布市について、各市が主催の総合防災訓練に参加し、防災公園の役割と設備を普及啓発した。



東京外語大留学生へ普及啓発



構原記念病院防災訓練



朝日町町内会防災訓練



防災トイレ体験



要配慮者に対応した訓練

多摩地域の伝統文化を伝承

4



2022年国の重要無形民俗文化財に指定された八王子車人形を招致

初連携

公園フェスタにおいて、多摩地区の希少な伝承芸能「八王子車人形」を招致し、子どもにも楽しめるように動物の人形や歌を交えて、地域の伝統文化の伝承と子育て支援の機会を創出した。



八王子車人形・三番叟



手遊びを入れた物語

健康レガシーウォーキング

17



「武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク」の名称付与を受け、園路にレガシーコース誕生

The Road Race Tama 2023
レガシーサイクリイベント
に協力

園路にレガシーコースが誕生したことにより、味の素スタジアムと連携し「武蔵野の森レガシー健康ウォーキング」を企画開催。園内のレガシーコースを使用したウォーキングイベントで、近隣住民の健康増進に寄与した。



The Road Race Tama



ウォーキング



スタート地点のルート
マーカーを新設



小金井公園

所在地：小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市
開園面積：80.49ha

まちと人と自然をつなぐ
武蔵野の大公園



地域と育てた、子どもが主役のイベント「コココの日」



公園でしかできないスケールの大きな外遊びを子どもたちに提供



子どもたちが描いた「未来の公園」

親子で楽しめるワークショップ

公園に新たな交流の場づくり

①都立公園150周年企画で「特大シャボン玉をつくろう!」「AIと子どもたちが描く未来の公園」を実施。「ひまわり畑のフォトスポット」など夢のある体験型コンテンツを揃え、**前年比約3倍の3,000人**が来場。

②「やってみたいこと」を公募した楽市楽座コーナーには、**地元から公園初参加を含むワークショップ8ブース、キッチンカー4台**が登場。緑豊かな公園に地域の魅力を引き込んで、心地よい空間を提供。

③飲料メーカー、玩具メーカーの協賛による体験型ブースも登場。企業連携の力を発揮。

④近隣JR3駅や近隣施設でのポスター掲示やチラシ配架、近隣小学校に**2,000枚のチラシ配布**、地元テレビ局の取材対応など、日頃の連携の強みを活かした地域密着型広報を展開。

ローカルが育てる、未来のメダリスト



多摩地域の都立公園初開催の子どもスケートボード教室は満員御礼!

①日頃からセクション(道具)管理や清掃活動などに取り組んでいる**ローカル(地元利用者)**への**ヒアリング**で利用者ニーズを調査。初心者対象の「子どもスケートボード教室」では**ローカルから講師**を迎え、地元色を強く打ち出すことで、仲間意識を育む機会を醸成。

②**ローカルの声を取り入れ**、槻の木広場の入口にデッキの飛出防止柵を制作・設置。初心者も上級者も安全に滑走できる施設環境を整備。



講師がマンツーマンでレクチャー



アンケートの結果 満足度は100%



遊び方以外に施設利用ルールを啓発



利用者を交え設備の効果検証



身近な自然への誘い



自然を体感できるチャンスを倍增

ボランティア講師を公園内外から招き、四季を通じて自然観察会を開催。実施できた**計7回の観察会に延べ309人が参加**し、実施回数と参加者は倍増。小金井公園で発見した自然の魅力の数も倍増！



春の息吹を観察



珍虫カマキリモドキ発見！



冬越し準備の昆虫を観察



梅の香りを楽しみながら

みんなで支える地域防災



地域と共に防災知識の普及啓発

地域住民がイベントで公園の防災施設を紹介、**地元大学生**が子ども向け防災ワークショップを運営、**地元高校生**が地域の防災マップ制作など、地域の皆さんの自発的な防災活動の場を、防災士の公園職員が支援。



地元大学生のワークショップ



地元小学校による防災施設見学



地元住民がかまどベンチでの湯沸かしを解説



地元高校生による公園ハザードマップ作り

子どもたちが夢中になっても大丈夫な遊び場づくり

子どもたちが安心して遊べる維持管理

①幼児が多い遊具広場そばのトイレの入口3方向の段差を可能な限り削りとり、構造上削れない段差には黄色く明示して転倒防止。



トイレ入口部の段差を解消。残った段差に黄線を付けて視認性向上。



②子どもの利用が少ない時期に、汗を流してわんぱく広場の大型遊具の不陸整正・段差解消補修等を集中実施。秋の多客期には快適・安全な環境を提供。

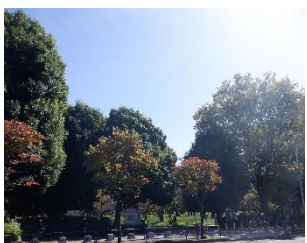


わんぱく山の雨後のぬかるみは、不陸整正と舗装で排水性向上。

「光」を活かすための植栽管理

外から中が見える玄関口づくり

小金井街道沿いに350株連なるシラカシやケヤキ等の**大径木を81本剪定**。園外からも「花と光のムーブメント」会場の桜の園が望めるようにし、公園入口部の開放感を大幅向上。風が通り、植栽環境も改善。



シラカシの透かし剪定で、公園西口の景観が向上

地域の声と想いを乗せて出発進行！

「SLおそうじプロジェクト」始動

「自分の手でSLをきれいにしたい」との声を受け、公園が協力を呼びかけ、清掃活動を開始。雑巾片手に都外からも有志が集い、**6回実施**で延べ**81人参加**。かつての黒鉄の輝きを取り戻すべく、熱い想いが集合。



SLがつなぐボランティア活動が出発



東村山中央公園

所在地：東村山市／開園面積：12.10ha

人、緑、花、鳥
元気いっぱいの公園



「アニメ聖地が地域をつなげる」シンポジウムと展示会

3 すべての人に
楽しみと学びを

官・民・学の連携・結束が強固となり、作品と一体となった取組は全国的にも好事例！



地域・企業・作品・ファンが一体となったシンポジウム



高校生のイラスト、作者描き下ろしポスター、アニメシーンで
アニメの舞台となった地域や公園の魅力を再発見！

アニメ聖地88に選ばれたことより、公園が核となりアニメ『女子高生の無駄づかい』を通じて、東村山市・企業・商店街・教育機関等と連携したシンポジウムを実施し、作品のファンを含め、**地域振興と地元への愛着を醸成**した。

北海道や九州から参加した方からは、「公園の中でアニメに出ていた場所を見つけて感動した。」「様々な立場の人が高い熱量で取り組んでいることがわかった。」等の感想をいただいた。展示会場では**幅広い年齢層と外国人の姿**も見受けられ、東村山（地域）と公園の魅力を伝えることができた。

地域連携防災訓練



地域連携防災訓練

近隣7自治会といざという時に
備えた実践的な訓練



防災連絡協議会にて「町会で保有している防災の備蓄品や機材を使ったことが無い」という意見を聞き、公園から自治会保有の防災機材を活用した訓練を提案した。消防、警察、自衛隊、水道局と連携し、自治会保有の可搬ポンプ等を用いた実践的な訓練を行い、地域の防災力向上につなげた。

キッズの防災意識向上

家族で防災を考えるきっかけに！



職員が他の防災施設や教育施設等を視察して作成した「キッズ防災」のクイズ3種（地震・火災・自然災害）を準備。消防署による消火器体験、ポンプ車乗車体験等も招致して、親子が楽しみながら防災を学び、備蓄品の準備や避難ルートを考えるきっかけを提供した。

都連携の防災普及啓発



関東大震災から100年の年

東京都・東村山市合同総合防災訓練において、西部公園緑地事務所や東京都慰霊協会と連携しブース出展。関東大震災から100年の節目を迎え、幅広く来場者に都の防災公園の整備や地震対策等を普及啓発することができた。



安全安心と景観に配慮した維持補修

ゲートボール場の腐朽した土留を改善し、利用者から感謝の声

腐朽した土留めの板の補修を何度も重ねていたが、崩れる恐れのないコンクリート基礎の土留めに改善し、長期の安全性を確保した。また外観を石積みにし、樹林地景観の向上につなげた。園路への土砂の流出もなくなり、利用者からは「きれいで快適になって使いやすい」等、感謝の言葉をいただいた。



Before



After

未来へつなぐ雑木林の維持管理 ～樹林再生プロジェクトの始動～



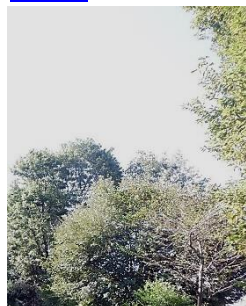
ナラ枯れ被害木の的確な対応

園内全域のクヌギ・コナラのナラ枯れ被害木132本を剪定・伐採した。全枯れした樹木は0本となり、ナラ枯れ被害拡大防止や安全安心な園内環境つなげた。

Before



After



ナラ枯れ被害を周知 ナラ枯れの理解が図られ、苦情ゼロ！

地域で守り育てる雑木林に！



Tokyo park
150 years



ぼくの子どもや孫も遊べる森に！

近年のナラ枯れ被害による伐採で、雑木林を構成するクヌギ・コナラの樹木が減少。そこで、切るだけではなく育てる取組を**150周年事業**にて提案し、地域の子どもたちが園内の樹林地で集めたどんぐりを播種し、**150鉢のどんぐりポット**を地域と連携して育苗する「樹林再生プロジェクト」を始動した。また、公園職員が近隣高校にも雑木林管理に関する出張講座を行い、次世代の樹林再生の協力者を募った。

都工事と連携した希少種の保全



QGISデータを共有し絶滅種危惧種の保全に

生物多様性保全整備工事に伴い、QGISによる**アズマイチゲ**、**イチリンソウ**等の希少種の生育位置データを都の工事担当者へ共有し、これら希少種を工事区域外へ移植し、保全に貢献した。バードサンクチュアリ内のナラ枯れ伐採後、池周辺の下草除去と**落ち葉清掃**を行い、**キンラン**や**キツネノカミソリ**の保全に寄与した。



イチリンソウ



バードサンクチュアリ

自然観察会の情報を横展開



生き物好きをターゲットに13公園の取組を発信！

防災多摩部や多摩丘陵等の13公園と連携したホームページの特設サイト「**やっぱり生き物がすき♡**」にて自然観察会を広くPRした。観察会では動植物の魅力を伝えた他、**スズメバチ**や**カエンタケ**等、園内の危険生物について注意喚起し、安全に配慮した自然観察を開催。園内の動植物や生育環境を普及啓発し、参加者の生物多様性に関する理解が向上した。



特設サイトやチラシで他公園のイベントも発信！



東大和南公園

所在地：東大和市／開園面積：9.87ha

公園の魅力を地元みんなで発信！
地域のセントラルパーク
みなみこうえん



地域と一体！ニュースポーツとあそびのプログラムで公園の魅力アップ

4



(1) パリオリンピック新種目「ブレイキン」でイベント初実施で公園の魅力アップ

市内で活躍するダンサーを招き、ブレイキン体験を「キッズコミュニティ」と「みなみこうえん祭」で継続して実施し、強力にプッシュ！ニュースポーツを促進し、新たな公園の魅力を創出した。

地元のトップダンサーと、全日本チャンピオンの白熱バトルは子どもから高齢者まで楽しめ、大喝采を浴びた。

ジュニアチャンピオン
HARUYA

白熱のバトルが展開
ギャラリー300人
が夢中に！



バンブーダンス

(2) 地元愛満載の「みなみこうえん祭」

協力団体は昨年から3団体増の12団体。

ハロウィングラフトや昔遊び、9グループ出演のステージなどを3,000人が楽しんだ。

公園が中心となった「地元愛」の輪が開き、連携団体同士の交流も活性化した。



みんなで東大和音頭



チアダンス



カラフル風車

地域と一体！ニュースポーツとあそびのプログラムで公園の魅力アップ

キッズコミュニティを年2回、リトルキッズコミュニティ(出前保育)を初開催

近隣住民と連携し、遊具のない公園として、体を動かしながら遊べる小学生向けプログラムを展開、「親子で楽しめるイベントがあってうれしいです」と大好評だった。

未就学児の子育て支援として、近隣保育園の先生が公園に出張する「出前保育」を初実施。



保護者同士の交流の場にも！

利用者目線のセルフガイドシート9種を新作！他公園と共有し拡大配布

15



	ガイドシート名	特記事項	活用
1	春の花見頃マップ	裏面樹名板の木、サクラ	掲示板上に掲示、チラシ等で配布
2	夏の花見頃マップ	裏面樹名板の木	〃 〃
3	秋の花・実・紅葉見頃マップ	裏面樹名板の木、どんぐり	〃 〃
4	早春の花見頃マップ	裏面樹名板の木	〃 〃
5	平和広場花壇の花見ごろ情報	ボランティア募集情報	〃 〃
6	こども昆虫観察マップ	裏面東大和南公園の昆虫	昆虫観察会で使用
7	セミノート	8ページ冊子、他公園に横展開	セミの抜け殻展示で使用
8	野鳥ガイドノート	16ページ冊子	バードウォッチングで使用
9	水と緑のウォーキングマップ	野火止用水の自然、周辺情報	健康ウォークスタンプラリーで使用



すべて新規制作で9種類



防災普及～初の試み「富士山噴火に備える」と広がる地域連携

11 住み続けられるまちづくりを

こどもを対象に、富士山噴火時体験

「キッズ防災デー」で東京学芸大学防災教育ラボとの初連携、富士山噴火災害について実験で学べるワークショップを開催。

噴火災害に関する歴史や正確な情報を伝え、その恐ろしさや対策の必要性を子どもたちに実感してもらい、保護者からも大きな反響を得た。



車、電車、洗濯物への影響など4種の実験で噴火の被害を実感



富士山噴火に関する最新の知見を解説



火山灰で車はスタック



顕微鏡による火山灰観察

●防災地域連携の数々



社会福祉協議会協力による災害時要配慮者支援訓練



自衛隊による「発災時の防災公園における活動」展示



東大和市の防災倉庫開錠共同点検



地域団体に防災講義



東大和市うまかんべえ祭に防災展示等出展

ウォーターハザードを克服



水害原因を調査分析し、補修・防御策を実施

6月の大雨の際にサービスセンターが冠水し、その原因を重点的に調査分析し、補修や防御策等のあらゆる対応を実施し、水害が解消した。

- ①園内全排水設備水流調査
- ②排水不良解消（配管根詰り解消、園路排水溝連結工事）
- ③直接防御策実施（SC周囲土壌積み、入口サッシ目張り、応急止水板）



排水溝連結工事



土壌による防御策



2時間50ミリでSC冠水、通路水没(6月)



1時間70ミリでも異状なし(9月)

地域に愛されるサクラの保護

樹木点検、診断に基づく適切な支柱設置対応

「夫婦桜」の愛称で地域に愛されている変電所裏のソメイヨシノ2本が樹木点検により、傾きが生じていることを確認。樹木医による診断を行い、両木に頼杖支柱等の新規設置と、既存支柱仕立て直しを行った。倒木を未然に防ぎ、シンボルツリーを守ることができた。



スポーツ施設維持管理向上策

これまで行ってきた通常維持管理作業に加え、管理クオリティの向上策を実施

●グループ内の経験値の高い公園と連携し**共同作業による研修**や**専門業者によるメンテナンス研修**で維持管理スキルを向上。



メンテナンス研修

●テニスコート側溝にヤシガラフィルター設置で排水詰まりを防ぎ、水たまり発生を改善。



土の敷き均し

●野球場内野の**不陸を重機使用により全面整備**（土入れ、均し、転圧）。不陸や水たまりが解消した。



「見違えた！気持ちよく使えた。」と好評

創意工夫で利用マナー向上

12 つくも環境をつくりだす

(1) ドッグボール

犬の散歩中にトイレを使用したい利用者の声に答え、職員手作りのドッグボールを設置し、愛犬との公園利用の利便性を拡大及びノーリード利用への啓発により飼い主のマナーが向上した。



(2) ちょこボラほうき

「利用者の皆さんで掃除を」の呼びかけで運動広場に置いた箒が浸透、利用マナーとして定着した。





秋留台公園

所在地：あきる野市／開園面積：11.84ha

大輪のバラと人々の笑顔が
絶えない活気あふれる公園



近隣施設と災害時避難の流れを実践的に確認「地域連携防災訓練」

11 住民が避難する
まちづくりを



広域避難場所と避難所をつなぐ！「避難所誘導訓練」

地域の新規7団体と連携し、秋留台公園（広域避難場所）から秋川体育館（避難所）へ避難者誘導訓練を初めて実施。避難所開設キット等の組立訓練、起震車・煙・初期消火体験、災害ボランティアの話等、様々な体験コーナーを設置し、各々が発災時の避難から生活再建までの役割分担を確認する機会になった。

地域住民が公園への避難→避難所開設→生活再建
これら一連の流れを理解する機会に！



参加者102人



関東大震災100年
幾多の災害を乗り越えてきた東京
備えよう、明日の防災

《参加団体》

- ①あきる野市町内会・自治会連合会
- ②秋川あすなろ保育園
- ③あきる野市地域防災課
- ④あきる野市防災・安心地域委員会
- ⑤あきる野市社会福祉協議会
- ⑥秋川体育館
- ⑦秋川消防署
- ⑧東京消防庁災害支援ボランティア



だれが避難所の鍵を開けるのか？
だれが避難誘導するのか？
役割を見直すきっかけに！



障がいのある方もない方も一緒に楽しむ「ユニバーサルスポーツ祭2023」

3 すべての人に
楽しみを届ける

待望の「ユニバーサルマラソン」再開！

実行委員会から再開の要望があった「ユニバーサルマラソン」は、13団体と計6回の打合せを重ね、誰でも参加できるよう自己申告タイムを競う内容に一新。マラソン以外にも様々な人が参加できるよう多彩なプログラムを展開。地域の世代間で交流が生まれ、障がいを理解する教育の場になった。

《多種多様な9種の体験型プログラム》

- ・オープニングダンス
- ・ユニバーサルマラソン
- ・玉入れ体験
- ・フライングディスク体験
- ・10分間ストレッチ
- ・秋留台高校和太鼓部による演奏&和太鼓体験
- ・自然クイズウォークラリー
- ・シールアンケート
- ・150周年ぬり絵募集&展示



当日のボランティア85人

Tokyo park
150 years
都市公園制度制定150周年
150th ANNIVERSARY



12チーム100人
で大盛況！





「ローズフェスタ」～分身ロボットを活用した新しいバラ園観賞～



DX活用で、交流型のバラ園観賞

カメラとマイクのついた分身ロボットOriHimeを活用し、**介護施設とバラ園を繋ぎ中継**。来園の難しい方にも他の来園者と交流しながら公園のバラを観賞していただくことで、近隣との絆を深めた。

併せて、バリアフリールートを知ることによって、引きこもりがちな高齢者に外出のきっかけを提供した。

都市公園制度制定150周年記念＆

地域の施設や他バラ園と連携のイベント開催

フルート演奏、ガイドツアー、バラの香り体験、地元と連携したケータリングカー出店＆近隣福祉事業所のバラにちなんだ販売ブース出店、秋留台高校合唱部・吹奏楽部合同コンサート等、様々なプログラムを地域一体で盛り上げ、公園の愛着を醸成した。さらに神代植物公園との連携によるバラの品種等のパネル展示を実施した。



バラ園ガイド35人、ポップリワークショップ50人・オリヒメ中継60人、秋留台高校合唱部・吹奏楽部生演奏コンサート約200人

走った分だけ緑が増える！ ランニングイベント開催



ランニングと緑がつながる公園ならではの新しい取組

(一財) 東京マラソン財団と連携したランニングイベントを開催。ウルトラマラソン世界大会優勝者の実業団選手が、参加者へランニング手法をレクチャーした。東京マラソン財団のグリーンマイレージプログラムに登録し、参加者が走った総距離136マイル×100円分、計1万3千600円が東京マラソン財団「スポーツレガシー事業」より東京都都市緑化基金へ寄付された。ランニングの楽しさだけでなく、スポーツを通じて社会貢献するきっかけや都市緑化、SDG s の意識向上につながった。



参加者数50人！

利用者目線で対応！ 柔軟な施設改善の実施



顧客満足度調査のアンケートによる2つの要望を改善した。

● 防滑対策で安心安全な園路に！

降雨後の滑りやすくなる園路の樹液・苔を高圧洗浄で除去し、周辺樹木の剪定も併せて行うことで安全・快適に通行ができる環境整備を行いました。また、西口園路の防滑材塗布により、安全性を強化。来園者から感謝の声をいただいた。

● サイン更新と土砂流出防止で修景改善！

駐車場入口の老朽化したサイン更新で美観と視認性が向上。

バラ園では法面部分からの土砂の流出による園路の汚損被害から景観向上と安全確保を目的に環境整備を実施。

「きれいになって良い」等お褒めの言葉をいただいた。



防滑対策施工中、施工後写真



サイン改善の前後写真



新たに設置された土留め

収支状況

3 収支(単位:千円)				
	令和5年度	令和4年度	令和3年度	公園別支出額
項目	金額	金額	金額	
収入 計	4,211,834	4,007,307	3,895,089	東白鬚公園：83,389、城北中央公園：162,865 武蔵野の森公園：116,567、木場公園：241,373、光が丘公園：302,921 小金井公園：326,042、砧公園：219,536、舎人公園：382,989 東村山中央公園：112,696、駒沢オリンピック公園：214,398 水元公園：380,775、東大和南公園：79,501、代々木公園：323,652 緑崎公園：186,600、秋留台公園：91,095、善福寺川緑地：160,087 葛西臨海公園：385,274、和田堀公園：109,309 武蔵野中央公園：80,804、汐入公園：73,248、府中の森公園：147,340
内 指定管理料	4,211,834	4,007,307	3,895,089	
内 利用料金	0	0	0	
支出 計	4,180,460	3,971,073	3,846,786	
収支差	31,374	36,234	48,303	